

P5200A シリーズ
高電圧差動プローブ
取扱説明書



077-0537-00

Tektronix

P5200A シリーズ
高電圧差動プローブ
取扱説明書

リビジョンA

www.tektronix.com

077-0537-00

Tektronix

Copyright © Tektronix. All rights reserved. 使用許諾ソフトウェア製品は、Tektronix またはその子会社や供給者が所有するもので、米国著作権法および国際条約の規定によって保護されています。

Tektronix 製品は、登録済および出願中の米国その他の国の特許等により保護されています。本書の内容は、既に発行されている他の資料の内容に代わるものです。また、本製品の仕様および価格は、予告なく変更させていただく場合がございますので、予めご了承ください。

TEKTRONIX および TEK は Tektronix, Inc. の登録商標です。

Tektronix 連絡先

Tektronix, Inc.
14150 SW Karl Braun Drive
P.O. Box 500
Beaverton, OR 97077
USA

製品情報、代理店、サービス、およびテクニカル・サポート:

- 北米内: 1-800-833-9200 までお電話ください。
- 世界の他の地域では、www.tektronix.com にアクセスし、お近くの代理店をお探してください。

保証

当社では、本製品において、出荷の日から1年間、材料およびその仕上がりについて欠陥がないことを保証します。この保証期間中に製品に欠陥があることが判明した場合、当社では、当社の裁量に基づき、部品および作業の費用を請求せずに当該欠陥製品を修理するか、あるいは当該欠陥製品の交換品を提供します。保証時に当社が使用する部品、モジュール、および交換する製品は、新しいパフォーマンスに適応するために、新品の場合、または再生品の場合もあります。交換したすべての部品、モジュール、および製品は当社で保有されます。

本保証に基づきサービスをお受けいただくため、お客様には、本保証期間の満了前に当該欠陥を当社に通知していただき、サービス実施のための適切な措置を講じていただきます。お客様には、当該欠陥製品を梱包していただき、送料前払いにて当社指定のサービス・センターに送付していただきます。本製品がお客様に返送される場合において、返送先が当該サービス・センターの設置されている国内の場所であるときは、当社は、返送費用を負担します。しかし、他の場所に返送される製品については、すべての送料、関税、税金その他の費用をお客様に負担していただきます。

本保証は、不適切な使用または不適切もしくは不十分な保守および取り扱いにより生じたいかなる欠陥、故障または損傷にも適用されません。当社は、以下の事項については、本保証に基づきサービスを提供する義務を負いません。a) 当社担当者以外の者による本製品のインストール、修理またはサービスの試行から生じた損傷に対する修理。b) 不適切な使用または互換性のない機器への接続から生じた損傷に対する修理。c) 当社製ではないサプライ用品の使用により生じた損傷または機能不全に対する修理。d) 本製品が改造または他の製品と統合された場合において、改造または統合の影響により当該本製品のサービスの時間または難度が増加したときの当該本製品に対するサービス。

この保証は、明示的または黙示的な他のあらゆる保証の代わりに、製品に関して当社がお客様に対して提供するものです。当社およびベンダは、商品性または特定目的に対する適合性についての一切の黙示保証を否認します。欠陥製品を修理または交換する当社の責任は、本保証の不履行についてお客様に提供される唯一の排他的な法的救済となります。間接損害、特別損害、付随的損害または派生損害については、当社およびそのベンダは、損害の実現性を事前に通知されていたか否に拘わらず、一切の責任を負いません。

[W2 - 15AUG04]

目次

安全にご使用いただくために.....	iii
適合性に関する情報.....	v
EMC 適合性.....	v
安全性.....	vi
環境への配慮.....	vii
まえがき.....	viii
プローブの使用方法.....	1
機器への接続.....	3
プローブのコントロール.....	6
機能チェック.....	8
アクセサリ.....	9
回路への接続.....	9
オプション.....	24
基本操作.....	25
動作特性とプロービング・テクニック.....	25
仕様.....	29
保証仕様.....	29
代表仕様.....	30
公称仕様.....	32
性能グラフ.....	33
性能検査.....	37
必要な機器.....	37
検査手順.....	38
調整.....	42
必要な機器.....	44
調整手順.....	45
トラブルシューティング.....	54
ホスト機器のファームウェア.....	54
エラー状態.....	54
クリーニング.....	55
サービス.....	55
索引	

安全にご使用いただくために

人体への損傷を避け、本製品や本製品に接続されている製品への損傷を防止するために、次の安全性に関する注意をよくお読みください。

安全にご使用いただくために、本製品の指示に従ってください。

資格のあるサービス担当者以外は、保守点検手順を実行しないでください。

本製品をご使用の際に、規模の大きなシステムの他の製品にアクセスしなければならない場合があります。システムの操作に関する警告や注意事項については、他製品のマニュアルにある安全に関するセクションをお読みください。

火災や人体への損傷を避けるには

適切な電源コードを使用してください。 本製品用に指定され、使用される国で認定された電源コードのみを使用してください。

接続と切断は正しく行ってください。 プローブと検査リードは、電圧ソースに接続されている間は着脱しないでください。

接続と切断は正しく行ってください。 プローブ出力を測定機器に接続してから、プローブを被測定回路に接続してください。被測定回路にプローブの基準リードを接続してから、プローブ入力を接続してください。プローブ入力とプローブの基準リードを被測定回路から取り外した後で、プローブを測定機器から取り外してください。

本製品を接地してください。 本製品は、メインフレームの電源コードのグラウンド線を使用して間接的に接地します。感電を避けるため、グラウンド線をアースに接続する必要があります。本製品の入出力端子に接続する前に、製品が正しく接地されていることを確認してください。

すべての端子の定格に従ってください。 火災や感電の危険を避けるために、本製品のすべての定格とマーキングに従ってください。本製品に電源を接続する前に、定格の詳細について、製品マニュアルを参照してください。

共通端子を含むどの端子にも、その端子の最大定格を超える電位をかけないでください。

電源を切断してください。 電源コードの取り外しによって主電源が切り離されます。電源コードをさえぎらないでください。このコードは常にアクセス可能であることが必要です。

カバーを外した状態で動作させないでください。 カバーやパネルを外した状態で本製品を動作させないでください。

故障の疑いがあるときは動作させないでください。 本製品に故障の疑いがある場合、資格のあるサービス担当者に検査してもらってください。

露出した回路への接触は避けてください。 電源がオンのときに、露出した接続部分やコンポーネントに触れないでください。

適切な AC アダプタを使用してください。 本製品用に指定された AC アダプタのみを使用してください。

湿気の多いところでは動作させないでください。

爆発性のあるガスがある場所では使用しないでください。

製品の表面を清潔で乾燥した状態に保ってください。

本マニュアル内の用語

本マニュアルでは、次の用語を使用します。



警告: 人体や生命に危害をおよぼすおそれのある状態や行為を示します。



注意: 本製品やその他の接続機器に損害を与える状態や行為を示します。

本製品に関する記号と用語

本製品では、次の用語を使用します。

- DANGER: ただちに人体や生命に危険をおよぼす可能性があることを示します。
- WARNING: 人体や生命に危険をおよぼす可能性があることを示します。
- CAUTION: 本製品を含む周辺機器に損傷を与える可能性があることを示します。

本製品では、次の記号を使用します。



注意
マニュアル
参照



警告
高電圧

適合性に関する情報

このセクションでは、本器が適合している EMC 基準、安全基準、および環境基準について説明します。

EMC 適合性

EC 適合宣言 - EMC (P5200A 型プローブのみに適用)

指令 2004/108/EC 電磁環境両立性に適合します。『Official Journal of the European Communities』に記載の以下の基準に準拠します。

EN 61326-1:2006、EN 61326-2-1:2006: 測定、制御、および実験用途の電子機器を対象とする EMC 基準^{1 2 3}

- CISPR 11:2003: グループ 1、クラス A、放射および伝導エミッション
- IEC 61000-4-2:2001: 静電気放電イミュニティ
- IEC 61000-4-3:2002: RF 電磁界イミュニティ
- IEC 61000-4-4:2004: ファスト・トランジェント/バースト・イミュニティ
- IEC 61000-4-5:2001: 電源サージ・イミュニティ
- IEC 61000-4-6:2003: 伝導 RF イミュニティ
- IEC 61000-4-11:2004: 電圧低下と停電イミュニティ⁴

EN 61000-3-2:2006: AC 電源高調波エミッション

EN 61000-3-3:1995: 電圧の変化、変動、およびフリッカ

欧州域内連絡先:

Tektronix UK, Ltd.
Western Peninsula
Western Road
Bracknell, RG12 1RF
United Kingdom

- 1 本製品は住居区域以外での使用を目的としたものです。住居区域で使用すると、電磁干渉の原因となることがあります。
- 2 本製品をテスト対象に接続した状態では、この規格が要求するレベルを超えるエミッションが発生する可能性があります。
- 3 ここに挙げた各種 EMC 規格に確実に準拠するには、高品質なシールドを持つインタフェース・ケーブルが必要です。
- 4 70%/25 サイクルの電圧低下および 0%/250 サイクル瞬断の各テスト・レベルにおいて、性能基準 C を適用します (IEC 61000-4-11)。

オーストラリア/ニュージーランド適合宣言 - EMC

ACMA に従い、次の規格に準拠することで Radiocommunications Act の EMC 条項に適合しています。

- CISPR 11:2003:グループ 1、クラス A、放射および伝導エミッション (EN61326-1:2006 および EN61326-2-1:2006 に準拠)

安全性

機器の種類

差動電圧プローブ

EC 適合宣言 - 低電圧指令

『Official Journal of the European Communities』の「低電圧指令 2006/95/EC」に記載の次の仕様に準拠します。

EN 61010-031/A1:2008:測定、制御、および実験用途の電子装置に対する安全基準 - パート 031: 電子計測およびテスト機器用ハンドヘルド・プローブ・アセンブリの安全に関する必要条件。

カナダ規格

CAN/CSA-C22.2 No. 61010-031-07/A1:2010、初版: 電子計測およびテスト機器用ハンドヘルド・プローブ・アセンブリの安全に関する必要条件。

その他の基準に対する適合性

IEC 61010-031/A1:2008:測定、制御、および実験用途の電子装置に対する安全基準 - パート 031: 電子計測およびテスト機器用ハンドヘルド・プローブ・アセンブリの安全に関する必要条件。

汚染度について

製品内部およびその周辺で発生する可能性がある汚染度の尺度です。通常、製品の内部環境は外部環境と同じとみなされます。製品は、その製品に指定されている環境でのみ使用してください。

- 汚染度 1: 汚染なし、または乾燥した非導電性の汚染のみが発生します。このカテゴリの製品は、通常、被包性、密封性のあるものか、クリーン・ルームでの使用を想定したものです。
- 汚染度 2: 通常、乾燥した非導電性の汚染のみが発生します。ただし、結露によって一時的な導電性が発生することもまれにあります。これは、標準的なオフィスや家庭内の環境に相当します。一時的な結露は製品非動作時のみ発生します。
- 汚染度 3: 伝導性のある汚染、または通常は乾燥して導電性を持たないが結露時に導電性を帯びる汚染。これらは、温度、湿度のいずれも管理されていない屋内環境に相当します。日光や雨、風に対する直接の曝露からは保護されている領域です。
- 汚染度 4: 導電性のある塵、雨、または雪により持続的に導電性が生じている汚染。これは一般的な屋外環境に相当します。

汚染度

汚染度 2 (IEC 61010-1 の定義による)。注: 屋内使用のみについての評価です。

設置／測定(過電圧)カテゴリについて

設置または測定(過電圧)カテゴリの指定は、本製品の端子により異なることがあります。設置および測定カテゴリは次のように定義されています。

- 測定カテゴリ IV。低電圧電源を使用して実施する測定用。
- 測定カテゴリ III。建築物の屋内配線で実施する測定用。
- 測定カテゴリ II。低電圧電源に直接接続した回路で実施する測定用。
- 測定カテゴリ I。AC 電源に直接接続していない回路で実施する測定用。

過電圧カテゴリ(AC アダプタ)

過電圧カテゴリ II (IEC 61010-1 の定義による)

環境への配慮

このセクションでは本製品が環境におよぼす影響について説明します。

使用済み製品の処理方法

機器またはコンポーネントをリサイクルする際には、次のガイドラインを順守してください。

機器のリサイクル: 本製品の製造には天然資源が使用されています。本製品には環境または人体に有害となる可能性のある物質が含まれているため、製品を廃棄する際には適切に処理する必要があります。有害物質の放出を防ぎ、天然資源の使用を減らすため、本製品の部材の再利用とリサイクルの徹底にご協力ください。



このマークは、本製品が WEEE (廃棄電気・電子機器) およびバッテリーに関する指令 2002/96/EC および 2006/66/EC に基づき、EU の諸要件に準拠していることを示しています。リサイクル方法については、当社の Web サイト (www.tektronix.com) のサービス・セクションを参照してください。

有害物質に関する規制

この製品は Monitoring and Control (監視および制御) 装置に分類され、2002/95/EC RoHS Directive (電気・電子機器含有特定危険物質使用制限指令) の適用範囲外です。

まえがき

本説明書では、Tektronix P5200A シリーズ高電圧差動プローブの操作および仕様について説明します。まず、各プローブに共通の機能、特性、操作方法を説明します。その後に、個別の仕様および性能検査手順を説明します。



警告: ご使用のプローブ用に設計され、測定する電圧以上の定格を持つアクセサリのみを使用してください (x ページの表 i 参照)。(xii ページの表 ii 参照)。

製品	帯域幅	減衰比	オシロスコープとのインタフェース
P5200A	50 MHz	50X/500X	BNC
P5202A	100 MHz	20X/200X	TekProbe BNC-レベル 2
P5205A	100 MHz	50X/500X	TekProbe BNC-レベル 2
P5210A	50 MHz	100X/1000X	TekProbe BNC-レベル 2

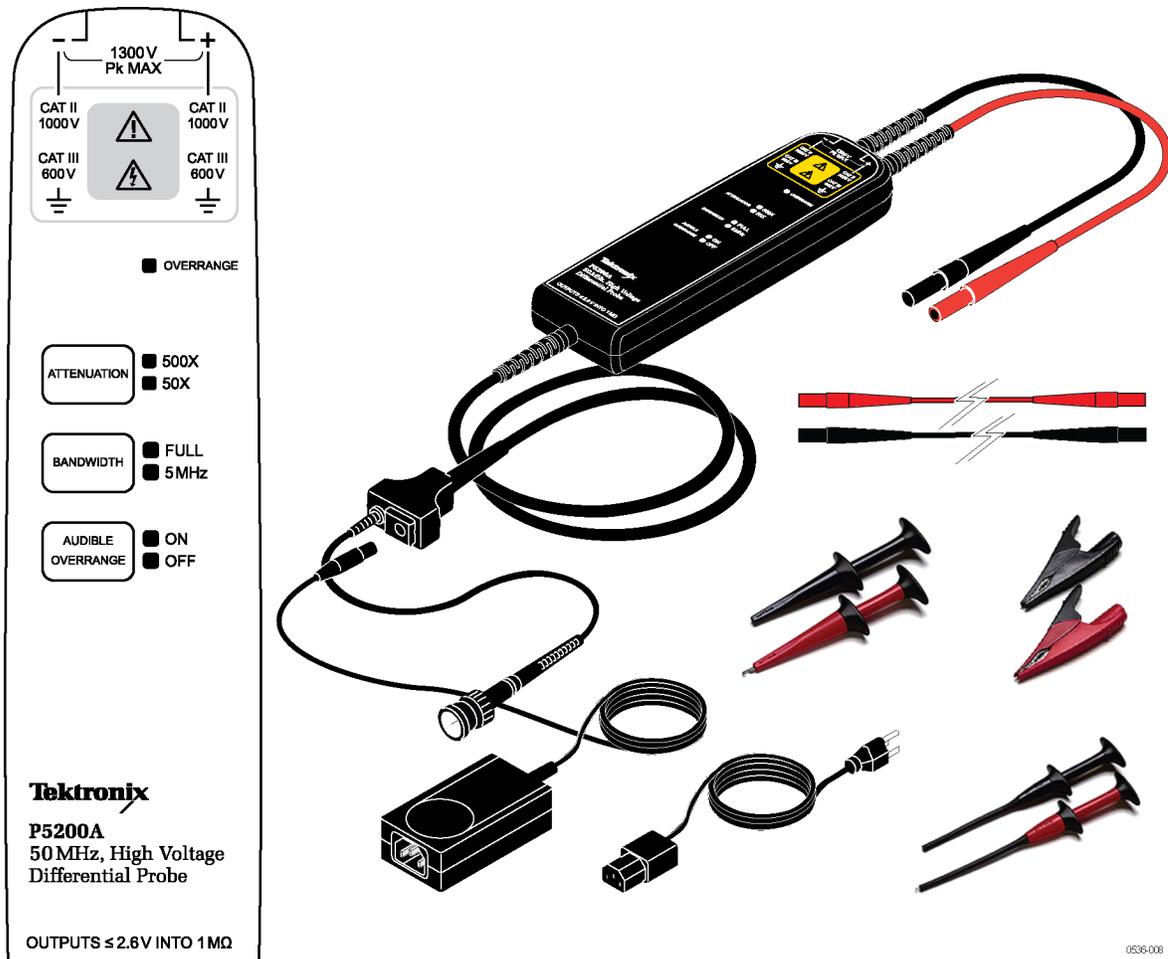


図 i: P5200A 型高電圧差動プローブおよびアクセサリ

表 i: P5200A 型、P5202A 型、P5205A 型プローブのスタンダード・アクセサリのディレーティング表

プローブとアクセサリを組み合わせた共通モード 電圧および対地入力電圧の定格			
アクセサリ	P5202A	P5200A & P5205A	P5210A ¹
延長リード	450 V CAT I 300 V CAT II	1,000 V CAT II 600 V CAT III	2,300 V CAT I 1,000 V CAT II
フック・クリップ (AC280-FL)	450 V CAT I 300 V CAT II	1,000 V CAT II 600 V CAT III	1,000 V CAT I 1,000 V CAT III
ピンサ・クリップ (AC283-FL)	450 V CAT I 300 V CAT II	1,000 V CAT II 600 V CAT III	1,000 V CAT I 1,000 V CAT III
ワニ口クリップ (AC285-FL)	450 V CAT I 300 V CAT II	1,000 V CAT II 600 V CAT III	1,000 V CAT I 1,000 V CAT III

¹ P5200A 型、P5202A 型、および P5205A 型のスタンダード・アクセサリは、P5210A 型プローブでも使用できますが、ここに記す低下電圧レベルでのみ使用可能です。

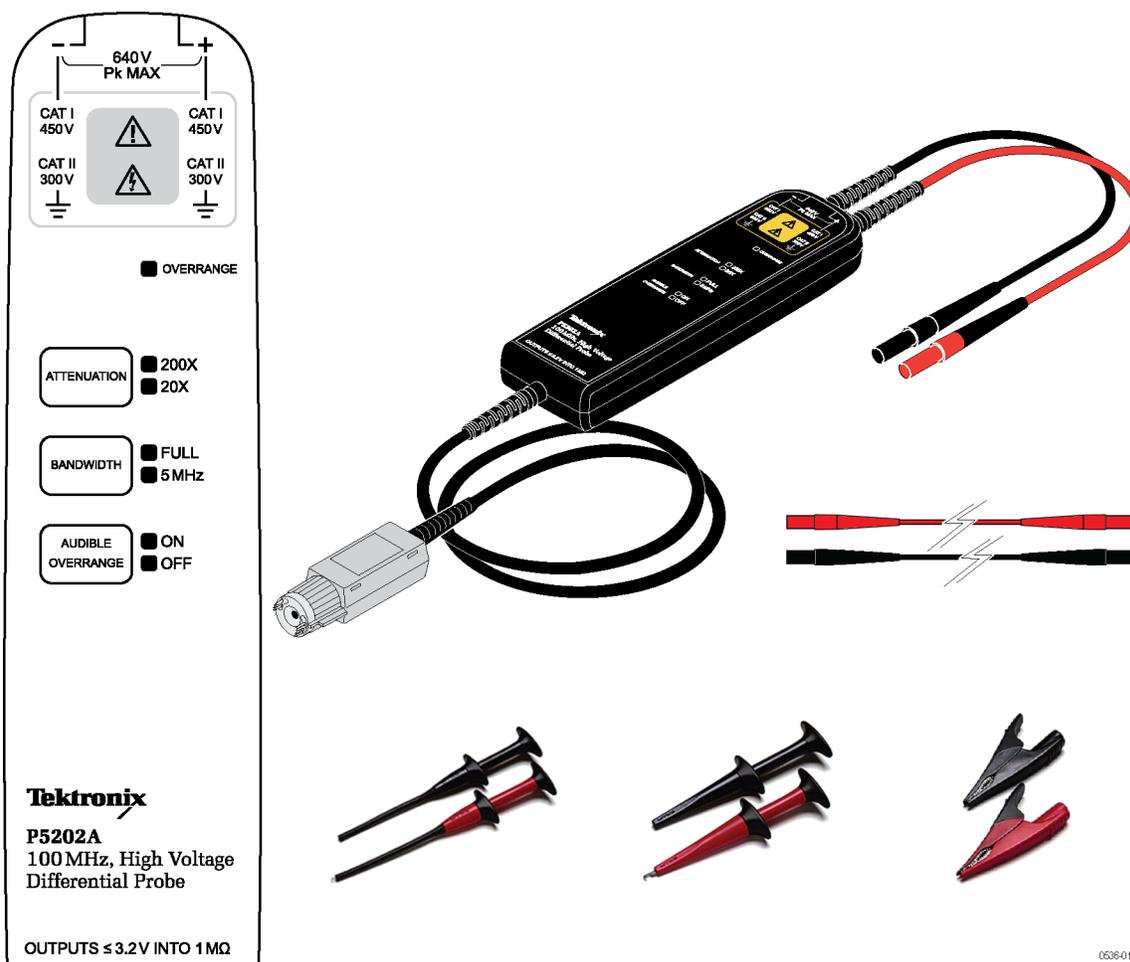


図 ii: P5202A 型高電圧差動プローブおよびアクセサリ

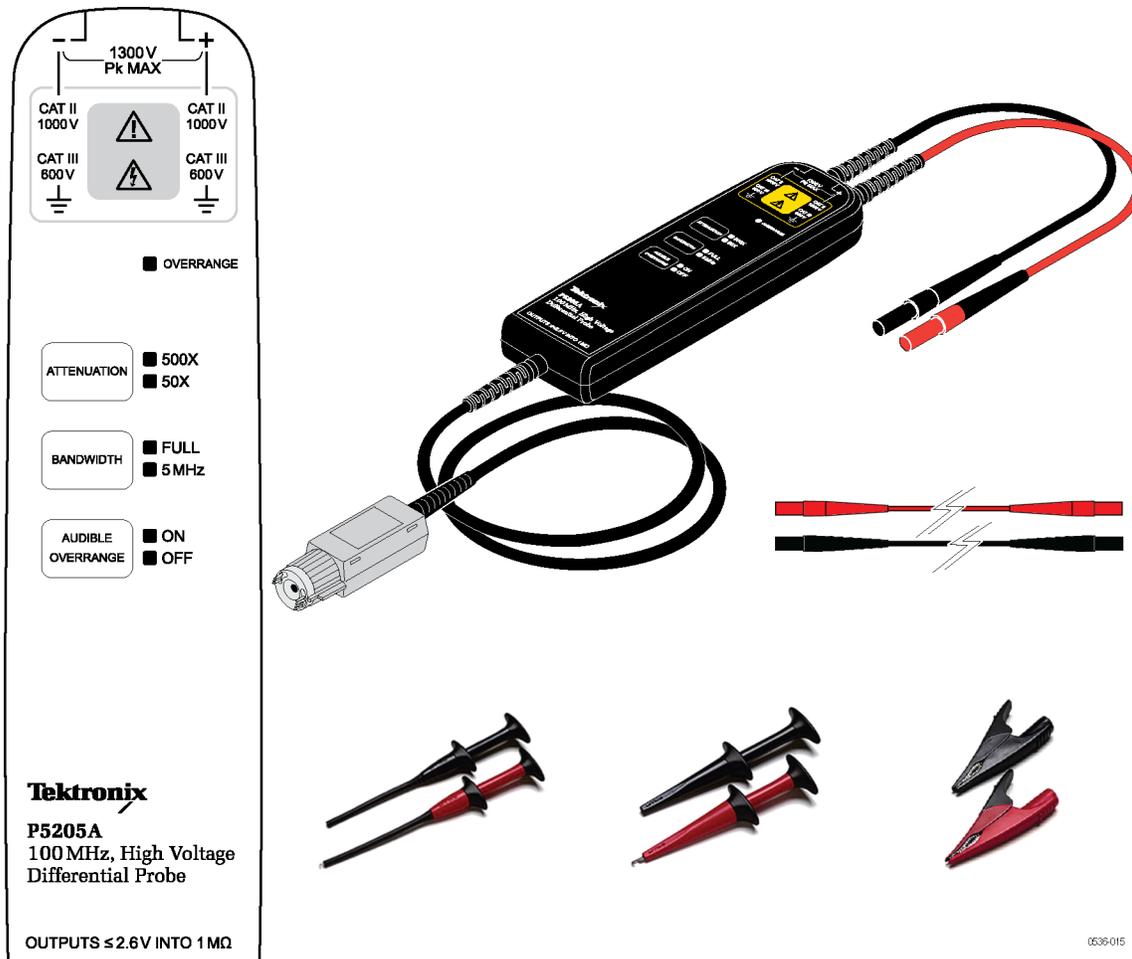


図 iii: P5205A 型高電圧差動プローブおよびアクセサリ

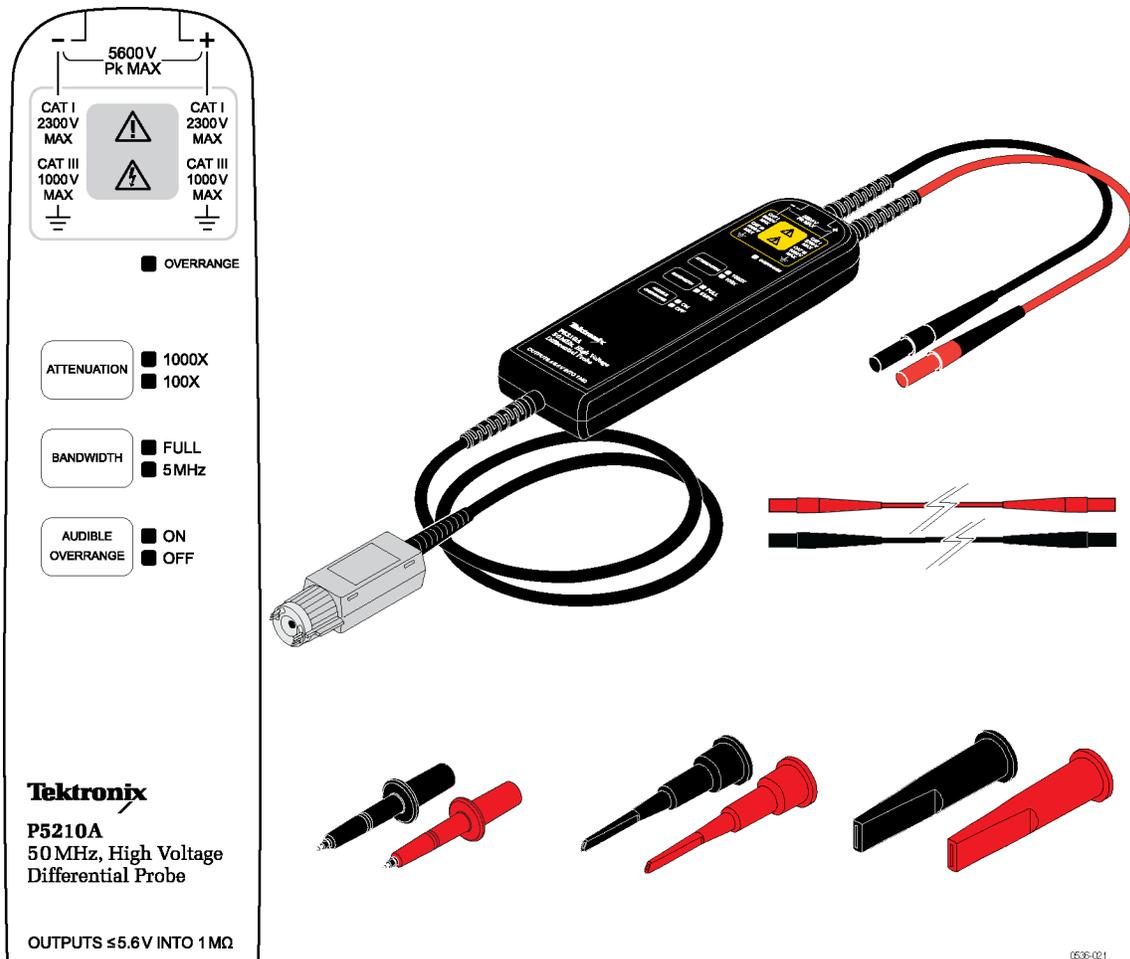


図 iv: P5210A 型高電圧差動プローブおよびアクセサリ

表 ii: P5210A 型プローブのスタンダード・アクセサリのディレーティング表

プローブとアクセサリを組み合わせた共通・モード
電圧および対地入力電圧の定格

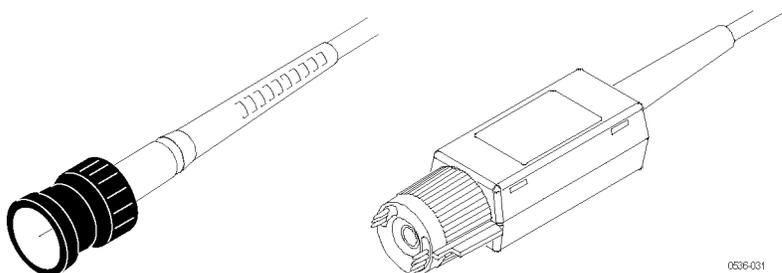
アクセサリ	P5202A ¹	P5200A & P5205A ¹	P5210A
延長リード	450 V CAT I 300 V CAT II	1,000 V CAT II 600 V CAT II	2,300 V CAT I 1,000 V CAT III
テスト・プローブ (TATP)	450 V CAT I 300 V CAT II	1,000 V CAT II 600 V CAT II	1,000 V CAT I 1,000 V CAT II
フック・チップ小 (TASH)	450 V CAT I 300 V CAT II	1,000 V CAT II 600 V CAT II	2,300 V CAT I 1,000 V CAT II
フック・チップ大 (TALH)	450 V CAT I 300 V CAT II	1,000 V CAT II 600 V CAT II	2,300 V CAT I 1,000 V CAT II

¹ P5210A 型のスタンダード・アクセサリは、この表に記す低下電圧レベルでこれらのプローブと共に使用できます。

プローブの使用法

P5200A シリーズ・プローブには、回路への接続、補正ボックスのボタン、および基本的な使用方法を含めて、多くの機能に共通性があります。プローブは、次の 2 つのインタフェースのいずれかを通じてホストのオシロスコープに接続します。

- BNC: 外周がグランド接続で中心に信号ピンを持つ 50 Ω シールド同軸ケーブルによる接続です。P5200A 型プローブには BNC インタフェースが使用され、多くのグランド基準のオシロスコープに直接接続することができます。



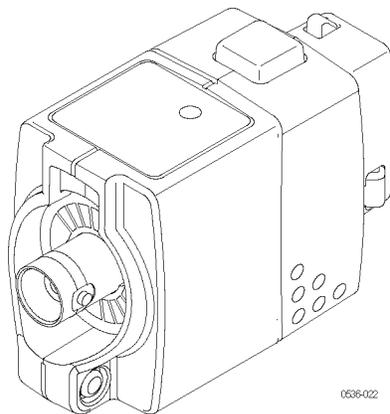
- TekProbe レベル 2: プローブとオシロスコープとの通信が可能で、プローブ・チップにおけるオフセットの校正を実行することができます。このインタフェースは、P5202A 型、P5205A 型、および P5210A 型プローブで使用され、多くの Tektronix オシロスコープで使用されています。これらのプローブは、オプションの TPA-BNC 型アダプタで接続することにより TekVPI インタフェースを持つ Tektronix オシロスコープでも使用可能となります。

TPA-BNC 型アダプタ

TPA-BNC 型アダプタは、TekProbe インタフェースのプローブを TekVPI プローブ・インタフェースを持つオシロスコープで使用できるようにするオプションのアクセサリです。このアダプタは TekProbe インタフェースのプローブを認識し、接続された TekProbe 製品アクセサリで使用される必要な電力、シリアル通信、およびオフセット制御を提供します。



警告： 感電や火災の危険を低減するために、TPA-BNC 型アダプタの定格を超えないようにしてください。アダプタは 30 VAC、42 Vpk、または 60 VDC を超える電圧に接続することはできません。BNC プローブでは、プローブはオシロスコープに直接接続します。

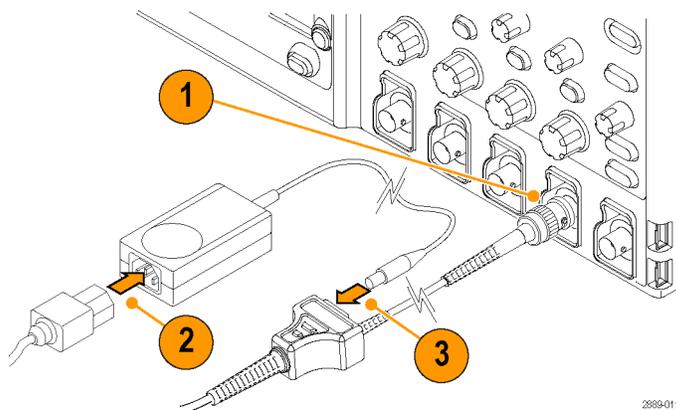


機器への接続

P5200A 型プローブ

P5200A 型プローブには、内部回路に電源を供給するために AC アダプタが必要です。次の手順に従って P5200A 型プローブを取り付けます。

1. オシロスコープまたは他の測定器の BNC 入力にプローブの出力を接続します。測定器の入力は、フローティングでなく、グランド基準でなければなりません。



2889-011

2. 電源コードを AC アダプタに接続します。
3. AC アダプタの出力を、プローブの出力リードにある DC 入力ジャックに接続します。電源が投入されたことを示すために、プローブの全 LED が一度点灯し、その後、以前のセッションの設定を示すように変わります。
4. 測定器の入力の垂直軸オフセット(または位置)を調整します。
5. 適切なレンジ設定を選択します。たとえば、P5200A 型プローブを使用して 130 V_{pk} より小さな信号を測定する場合は、分解能を高めノイズを低減するために減衰比は 50X に切り替えます。オーバーレンジ・インジケータが点灯したり点滅する場合は、出力信号が不正確なことがあります。この場合は、代わりに 500X の設定を使用します。

オシロスコープにスケールされた値でなく実際のプローブ電圧を表示させるには、オシロスコープの減衰比設定をプローブの減衰比の設定に一致させる必要があります。オンスクリーンのプロブ設定メニューを使用します。メニューへのアクセス方法はオシロスコープのモデルにより異なります。

たとえば、DPO/MSO4000 シリーズのオシロスコープでは、フロントパネルのチャンネル・ボタンを押し、次に下のベゼルの More ボタンを Probe Setup (プローブ設定) がハイライトされるまで何回か押します。Probe Setup (プローブ設定) メニューにオシロスコープの減衰比設定が表示されます。汎用ノブを回して、減衰比を変えます。



警告： 感電防止のため、60 VDC または 30 VAC_{rms} を超える電圧を取り扱う場合は、安全に関する適切な予防措置をよくお読みください。これらの電圧レベルでは感電の危険性があります。使用するプローブに指定されたアクセサリのみを使用してください。接続や切断の前に、アクセサリが確実に取り付けられていることを確認してください。

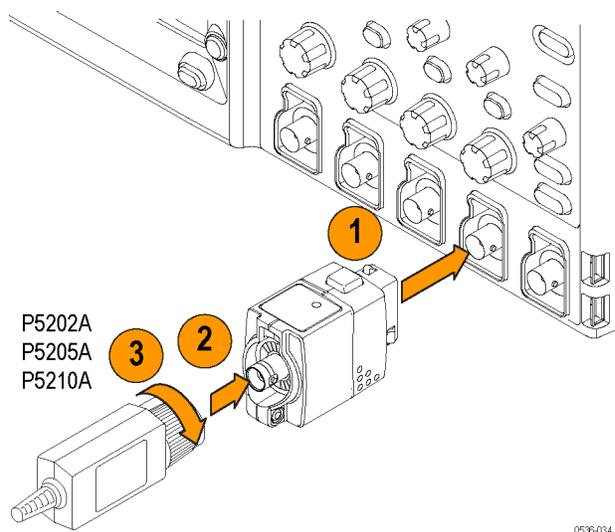
感電や火災を避けるために、テスト・リードの状態に問題がないことを確認してください。入力リードと延長リードにはジャケットの摩耗インジケータがあります。ワイヤのジャケットが過度に摩耗するとこのインジケータが見えるようになります。インジケータが見えるプローブは使用しないでください。修理と交換については、当社サービス受付センターにお問い合わせください。

感電や火災を避けるために、プローブ本体とプローブの出力ケーブルは被測定回路に近づけないようにしてください。プローブ本体と出力ケーブルは、被測定回路と接触してもよいように設計されてはいません。

6. プローブの適切なアクセサリを使用して、測定する回路ポイントにプローブ入力を接続します。

P5202A 型、P5205A 型、および P5210A 型プローブと VPI インタフェースのオシロスコープとの接続

1. TPA-BNC 型アダプタをオシロスコープに接続します。



2. プローブをアダプタの入力に接続します。

3. プローブ・コネクタを時計方向に回してしっかり固定します。電源が入ったことを示すために、プローブの全 LED が一度点灯し、その後、以前のセッションの設定を示すように変わります。

4. オシロスコープ入力の垂直軸オフセット(または位置)を調整します。

注： プローブの補正ボックスのオフセット調整を使用して調整しないでください。これは、電子的調整レンジを最適化するために工場ですべてプリセットされています。オフセット調整については、その手順を参照してください (45 ページ「ゼロ・オフセット」参照)。

- 適切なレンジ設定を選択します。たとえば、P5202A 型プローブを使用して $64 V_{pk}$ より小さな信号を測定する場合は、分解能を高めノイズを低減するために、減衰比を 20X に切り替えます。オーバーレンジ・インジケータが点灯したり点滅する場合、出力信号が不正確なことがあります。この場合は、代わりに 200X の設定を使用します。



警告： 感電防止のため、60 VDC または $30 VAC_{rms}$ を超える電圧を取り扱う場合は、安全に関する適切な予防措置をよくお読みください。これらの電圧レベルでは感電の危険性があります。使用するプローブに指定されたアクセサリのみを使用してください。接続や切断の前に、アクセサリが確実に取り付けられていることを確認してください。



警告： 感電や火災を避けるために、テスト・リードの状態に問題がないことを確認してください。入力リードと延長リードにはジャケットの摩耗インジケータがあります。ワイヤ・ジャケットが過度に摩耗するとこのインジケータが見えるようになります。インジケータが見えるプローブは使用しないでください。修理と交換については、当社サービス受付センターにお問い合わせください。

- プローブの適切なアクセサリを使用して、プローブ入力を測定する回路ポイントに接続します。



警告： 感電や火災を避けるために、プローブ本体とプローブの出力ケーブルは被測定回路に近づけないようにしてください。プローブ本体と出力ケーブルは、被測定回路と接触してもよいように設計されてはいません。

機器からの取り外し



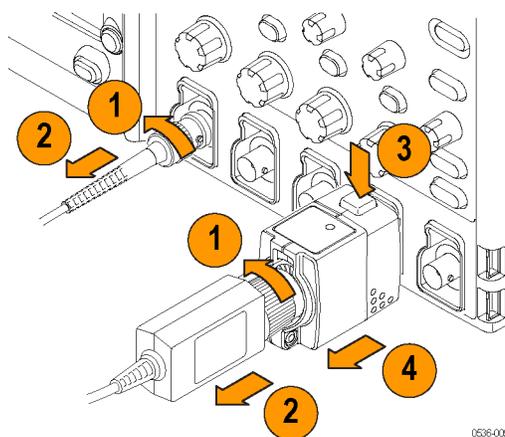
警告： 感電を避けるため、プローブを機器から取り外す前に、プローブの入力を回路から切断してください。

P5200A 型

- プローブのコネクタを反時計方向に回します。
- まっすぐに引き抜きます。

P5202A 型、P5205A 型、 P5210A 型

- プローブのコネクタを反時計方向に回します。
- まっすぐに引き抜きます。
- アダプタ上のラッチ・ボタンを押します。
- まっすぐに引き抜きます。



0536-009

プローブのコントロール

P5200A シリーズのプローブには、プロービングと測定をより簡単に行えるようにいくつかの機能があります。これから説明するコントロールについて習熟してください。減衰レンジはプローブのモデルによって異なります。

オーバーレンジ・インジケータ

入力信号電圧がレンジ設定の線形範囲を超えた場合は、オーバーレンジ・インジケータが赤く点灯します。この場合、プローブの出力信号はプローブの入力信号と正確に一致しません。



警告：オーバーレンジ・インジケータは、プローブ入力におけるコモンモード電圧または対地電位のオーバーレンジ条件は検出しません。オーバーレンジ・インジケータは、入力端子の+と-間の差を検出するだけです。

測定する際は、プローブのコモンモード電圧または入力対地電圧の定格を超えないようにしてください(28 ページ「オーバーレンジの検出」参照)。

不確かな場合は、差動測定を行う前に、各点のシングルエンド測定をまず行ってください。片側の入力リード(-入力)をグラウンドにつなぎ、次に他端のリード(+入力)を測定ポイントにつなぎます。

ATTENUATION ボタンとインジケータ

ボタンを押して、プローブの電圧レンジ（減衰比）の設定から選択します。レンジはプローブ上の 2 つの LED により示されます。また、オシロスコープのモデルによっては、オシロスコープの画面にも表示されます。

P5200A モデルのみ：オシロスコープにスケールされた値でなく実際のプローブ電圧を表示させるには、オシロスコープの減衰比設定をプローブの減衰比の設定に一致させる必要があります。オシロスコープのオンスクリーンの Probe Setup (プローブ設定) メニューを使用して設定を変えます。

印加した電圧が選択されているレンジを超える場合は、オーバーレンジ LED が点灯します。より高いレンジを選択すると、LED が消灯します。より高いレンジがない場合には、測定を取り止めてください。



帯域制限とインジケータ

ボタンを押してプローブの帯域を 5 MHz に制限します。5 MHz は、スイッチ・モード電源 (SMPS) におけるほとんどのスイッチング・トランジスタ (FET) のスイッチング周波数に近い値です。

5 MHz フィルタを使用すると、高周波数成分、ノイズ、および高調波を測定から除去できるため、スイッチ・モードの電源の特性や動作をテストするのに役立ちます。

ボタンを再度押して Full の位置に戻すと、プローブに指定された全帯域が選択されます。



オーバーレンジ・アラーム音のオン/オフ・ボタンとインジケータ

ボタンを押すと ON LED が点灯し、測定信号が選択されているレンジを超えたことを示すアラーム音が有効になります。ボタンを再度押すと OFF LED が点灯し、アラーム音が無効になります。



機能チェック

P5200A シリーズのプローブに付属のアクセサリと AC 電源を使用して、次の手順を実行します。



警告： 感電や火災の危険を低減するために、42 Vpk を超える電圧ソースに接続する際は、その前にアクセサリが確実に取り付けられていることを確認してください。

1. プローブ出力をオシロスコープの入力チャンネルに接続します。
2. プローブ入力を AC 電圧ソースに接続します。
3. プローブの減衰比レンジを高い方に設定し、次の表の各行に示すチェックを実行します。

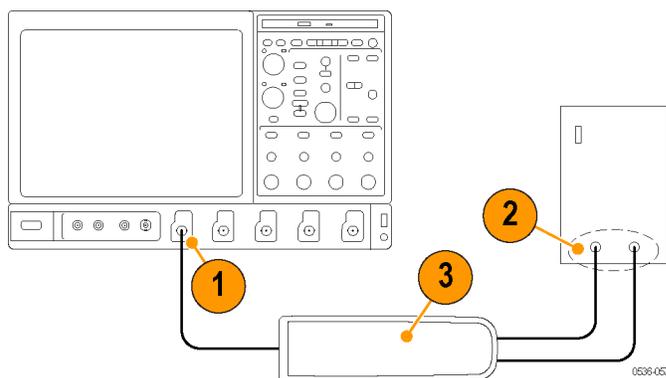


図 1: 機能チェックのセットアップ

入力 1 (+ または -)	入力 2 (- または +)	モード	レンジ設定	チェック項目
ホット	グラウンドまたは中性点	差動	高 (1000X、500X、または 200X)	測定器がライン電圧を表示するか指示すること
ホット	グラウンドまたは中性点	差動	低 (100X、50X、または 20X)	測定器がライン電圧を表示するか指示すること。入力が約 20% を超える場合はオーバーレンジ・インジケータが点灯すること
ホット	ホット (同一接続)	コモン・モード	高または低	信号がないこと ¹

¹ DC オフセット電圧がある場合は、DC オフセットをゼロにします (45 ページ「ゼロ・オフセット」参照)。

アクセサリ

P5200A シリーズのプローブには、測定回路に接続しやすいように、スタンダード・アクセサリが付属しています。入手できる他のアクセサリは、「オプション・アクセサリ」のセクションに記載されています (16 ページ「P5200A シリーズ・プローブのオプション・アクセサリ」参照)。

回路への接続

本体の入力リードか、測定に最適なアクセサリを使用して、測定回路に接続します。



警告：感電や火災の危険を低減するために、プローブまたはプローブ・アクセサリの電圧定格またはカテゴリ定格 (いずれか低い方) を超えないようにしてください。プローブに付属のアクセサリ以外は使用しないでください。

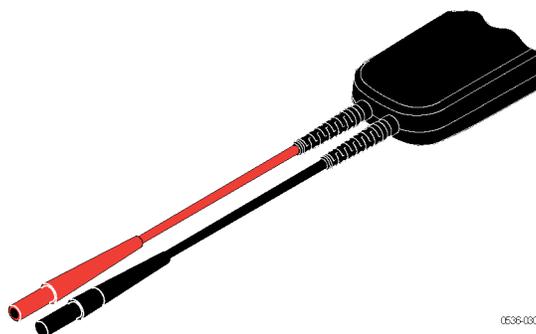
プローブやアクセサリを使用する際、感電を避けるために、指はプローブ本体の指ガードの背後に隠れるようにし、後のアクセサリ図に示す網掛の領域から離すようにしてください。

感電や火災を避けるために、テスト・リードの状態に問題がないことを確認してください。入力リードと延長リードにはジャケットの摩耗インジケータがあります。ワイヤ・ジャケットが過度に摩耗するとこのインジケータが見えるようになります。インジケータが見えるプローブは使用しないでください。修理と交換については、当社サービス受付センターにお問い合わせください。

感電や火災を避けるために、プローブ本体とプローブの出力ケーブルは被測定回路に近づけないようにしてください。プローブ本体と出力ケーブルは、被測定回路と接触してもよいように設計されてはいません。

本体の入力リード

本体の入力リードは、プローブ本体からの長さ約 9 インチ (0.23 m) で、被覆されたオスのバナナ・プラグが付いています。測定回路にリードを直接つなぐか、次ページ以降に示す延長リードや他のアクセサリを使用します。



0536-030

P5200A 型、P5202A 型、および P5205A 型プローブのスタンダード・アクセサリ

延長リード

これらのケーブルはプローブを約 67 インチ (1.5 m) 延長します。プローブに含まれるすべてのクリップ・アクセサリは、バナナ端につながることができます。

プローブには一対の延長リードが付属しています。

最大定格:

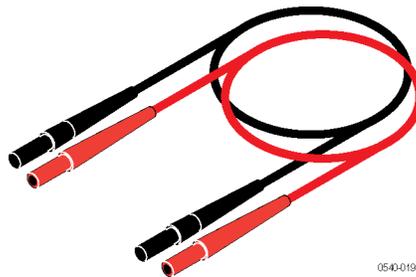
2,300 V CAT I *

1,000 V CAT III

* 使用するプローブの過電圧トランゼント (OVT) 仕様を参照してください。

注文用当社部品番号:

196-3523-xx (1 ペア)



0540-019

フック・クリップ (AC280-FL)

プローブのテスト・リードをバナナ・プラグ・コネクタに差し込みます。グリップを縮めてフック・クリップを露出させ、次にクリップを回路のテスト・ポイントに取り付けます。

最大定格:

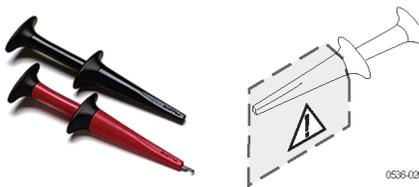
1,000 V CAT III

600 V CAT IV

プローブには一対のフック・クリップが付属しています。

注文用当社部品番号:

AC280-FL (1 ペア)



0536-028

ピンサ・クリップ (AC283-FL)

プランジャ・プローブのスリーブは長く、引込み式のフックが付いています。これらのプローブは、奥まって届きにくいテスト・ポイントにも安全に接続できます。

最大定格:

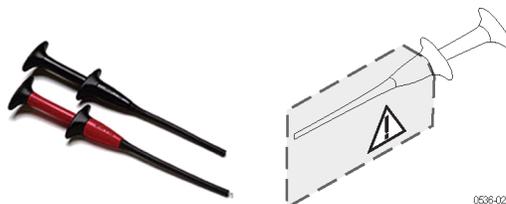
1,000 V CAT III

600 V CAT IV

プローブには一対のピンサ・クリップが付属しています。

注文用当社部品番号:

AC283-FL (1 ペア)



0536-027

ワニロクリップ (AC285-FL)

これらの大きな絶縁ワニロクリップは、多くの回路部品の接続に使用できます。

最大定格:

1,000 V CAT III

600 V CAT IV

プローブには一対のクリップが付属しています。

注文用当社部品番号:

AC285-FL (1 ペア)



0536-028

P5210A 型プローブのスタンダード・アクセサリ



警告： 感電や火災の危険を避けるため、P5210A 型テスト・プローブやフック・チップ・アクセサリは CAT III または CAT IV 回路には使用しないでください。取扱説明書の最初にある定格表を参照してください (x ページの表 i 参照)。(xii ページの表 ii 参照)。

感電や火災の危険を避けるため、P5210A 型のテスト・プローブまたはフック・チップ・アクセサリを P5200A 型、P5202A 型、および P5205A 型プローブで使用する場合は、1,000 V を超える回路には使用しないでください。

用途に応じた定格を持つアクセサリ以外は使用しないでください。他のアクセサリで代用すると、感電や火傷をすることがあります。プローブ本体とアクセサリは清潔に保って、表面伝導による感電の危険性を低下させてください。

延長リード

これらのリードでプローブを約 67 インチ (1.5 m) 延長することができ、これにより 3 m 離れたところまで接続することができます。入力リードの長さが同じになるように、必ず両方の延長リードを使用するようにしてください。

リードが長くなるので、入力リードに誘導される差動ノイズが増加します。また、リードのインダクタンスが増加するので、約 10 MHz を超える周波数での電圧測定 of 確度が落ちます。最高の性能を得るには、オシロスコープで 20 MHz かそれ以下の低帯域フィルタを使用します。

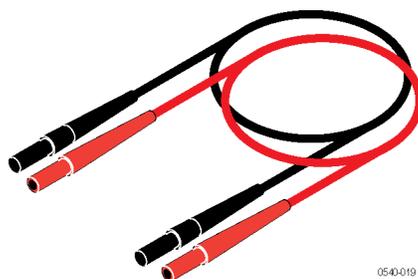
オスのバナナプラグ端をプローブに含まれるテスト・プローブに接続します。

最大定格：

1,000 V CAT III

600 V CAT IV

注文用当社部品番号：196-3523-xx (1 ペア)

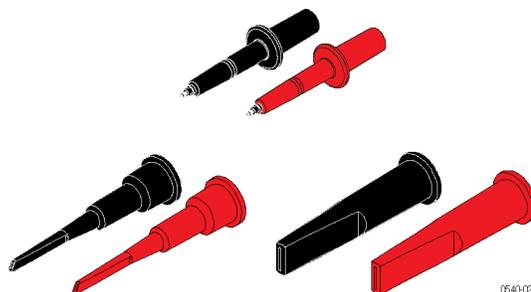


0540-019

P5210A 型のアクセサリ・キット

キットには、以降のページに示すように、各アクセサリのペアが含まれています。

- テスト・プローブ (TATP)
- フック・チップ小 (TASH)
- フック・チップ大 (TALH)



0540-025

注文用当社部品番号：020-3070-xx

テスト・プローブ (TATP)

テスト・プローブを使用して各テスト・ポイントに触れたり、フック・チップをテスト・リードにつなげたりします。

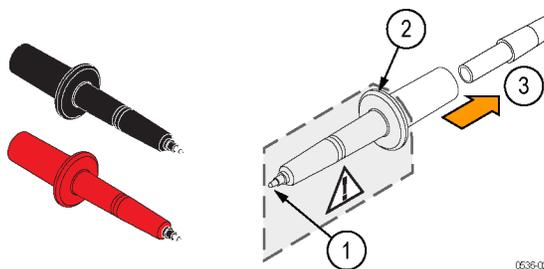
1. テスト・プローブのチップは 6-32 ネジのポストで、プローブに付属した大小のフック・チップを取り付けることができます。
2. フック・チップを使用していない場合でも、指ガードで指を保護することができます。指は可能な限り指ガードの後ろに隠し、被試験回路から感電する危険を減らしてください。
3. テスト・プローブの反対側はプローブの入力テスト・リードに接続します。

最大定格:

2,300 V CAT I *

1,000 V CAT II

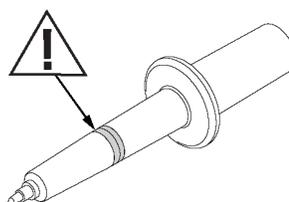
* 使用するプローブの過電圧トランゼント(OVT)仕様を参照してください。



0636-025



警告: アーク放電を避けるために、背の高いコンポーネントのある回路でプロービングするには注意が必要です。電位の異なるコンポーネントの間に金属シェルを近づけないでください。近づきにくい場所でプロービングする際は TASH を使用してください。



0636-046

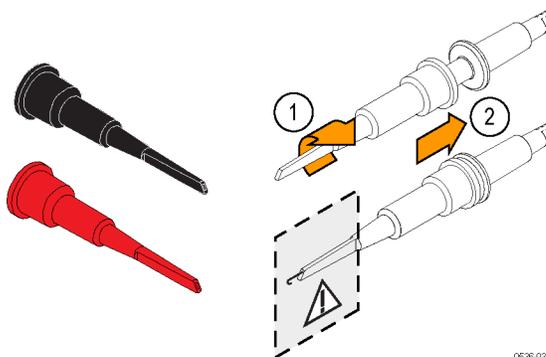


警告: アーク放電を避けるため、テスト・プローブまたはフック・チップを CAT III 回路に使用しないでください。CAT III 回路をプロービングするには、AC280-FL 型、AC283-FL 型、または AC285-FL 型を使用します。

フック・チップ小 (TASH)

フック・チップ小は、コンポーネントのリードなど、小さな導体に接続する際に使用します。

フック・チップ小を TATP テスト・プローブにねじ込みます。フック・チップを使用するには、プローブ本体を持って、チップのプロテクタを手元に引き寄せます。チップを回路に引掛けてプロテクタを放します。



0536-035



警告: 1,000 V より高い電圧を測定する際は、感電の危険を避けるために、常に指は触覚段差より後方に保ってください。

最大定格:

2,300 V CAT I *

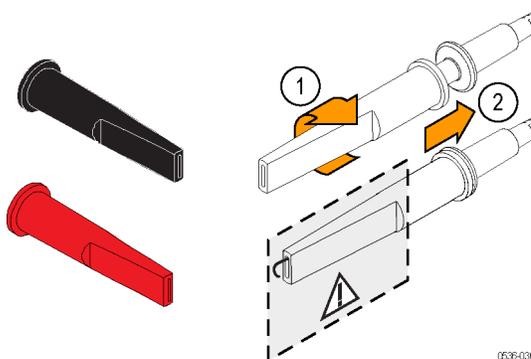
1,000 V CAT II

* 使用するプローブの過電圧トランゼント (OVT) 仕様を参照してください。

フック・チップ大 (TALH)

配電装置で見られるようなボルト端子やバス・バーなど、大きな部品でプロービングする場合は、フック・チップ大を使用します。

フック・チップ大を TATP テスト・プローブにねじ込み、次にフック・チップを回路に取り付けます。



0536-036



警告: 1,000 V より高い電圧を測定する際は、感電の危険を避けるために、常に指は触覚段差より後方に保ってください。

最大定格:

2,300 V CAT I *

1,000 V CAT II

* 使用するプローブの過電圧トランゼント (OVT) 仕様を参照してください。

P5200A 型プローブの電源と電源コードのオプション

P5200A 型プローブには、プローブに同梱されている外部 DC 電源が必要です。世界各地の電源コード・オプションが、次の表に示すように用意されています。

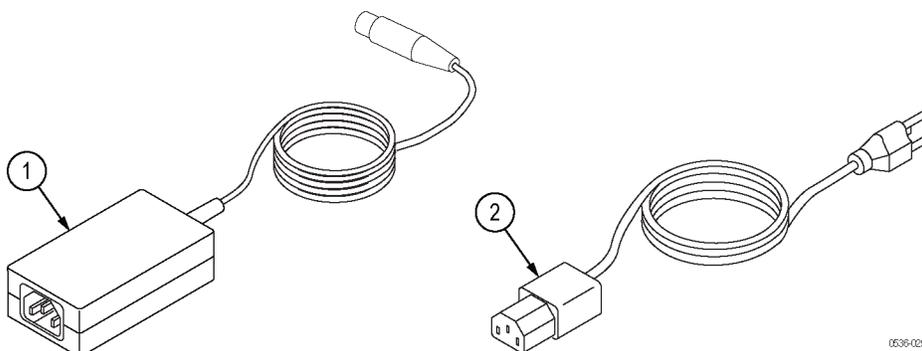


表 1: P5200A 型の電源と電源コードのオプション

項目	説明	当社部品番号
1	電源: AC-DC、18W、デスクトップ型、90-264 VAC、47-63 HZ、IEC320-C14(入力側)、9 VDC 2 A、筒型コネクタ付きケーブル(出力側)、安全基準準拠	119-7758-xx
2	オプション A0 型: 電源ケーブル・アセンブリ、3 X 18 AWG、250V/10A、98.0 L、STR、IEC320、RCPT X NEMA 5-15P、米国、安全基準準拠	161-0066-00
	オプション A1 型: 電源ケーブル・アセンブリ、3 X 0.75 mm SQ、250V/10A、99.0 L、STR IEC320、RCPT、欧州、安全基準準拠	161-0066-09
	オプション A2 型: 電源ケーブル・アセンブリ、3 X 1.0 mm SQ、250V/10A、2.5 m、STR、IEC320、RCPT X 13A、ヒューズ付き英国プラグ(13A ヒューズ)、英国、安全基準準拠	161-0066-10
	オプション A3 型: 電源ケーブル・アセンブリ、3 X 1.0 mm SQ、250V/10A、2.5 m、STR、IEC320、RCPT、オーストラリア、安全基準準拠、絶縁ピン	161-0066-13
	オプション A5 型: 電源ケーブル・アセンブリ、3 X 1.0 mm SQ、250V/10A、2.5 m、STR、IEC320、RCPT、スイス、安全基準準拠	161-0154-00
	オプション A6 型: 電源ケーブル・アセンブリ、3、125V/7A、日本、98 LONG、STR、NEMA 5-15P プラグ X IEC320/C-13 レセプタクル、安全基準準拠	161-0298-00
	オプション A10 型: 電源ケーブル・アセンブリ、3 X 1.0 mm SQ、250V/10A、2.5 m、STR、IEC320、3C 認証、レセプタクル、中国、安全基準準拠	161-0304-00
	オプション A11 型: 電源ケーブル・アセンブリ、3 X 1.0MM SQ、250V/6A、2.5 m、STR、IEC320/C13、レセプタクル、プラグ、インド	161-0400-00
	オプション A12 型: 電源ケーブル・アセンブリ、3 X 1.00 mm SQ、250V/10A、2.5 m、STR、IEC320/C13 認証、レセプタクル、ブラジル、安全基準準拠	161-0357-00

P5200A シリーズ・プローブのオプション・アクセサリ



警告： 感電や火災の危険を低減するために、プローブまたはプローブ・アクセサリの電圧定格またはカテゴリ定格 (いずれか低い方) を超えないようにしてください。プローブに付属のアクセサリまたは下記に示すオプション・アクセサリのみを使用してください。

プローブやアクセサリを使用する際、感電を避けるために、指はプローブ本体の指ガードの背後に隠れるようにし、後のアクセサリ図に示す網掛の領域から離すようにしてください。

感電や火災を避けるために、テスト・リードの状態に問題がないことを確認してください。入力リードと延長リードにはジャケットの摩耗インジケータがあります。ワイヤ・ジャケットが過度に摩耗するとこのインジケータが見えるようになります。インジケータが見えるプローブは使用しないでください。修理と交換については、当社サービス受付センターにお問い合わせください。

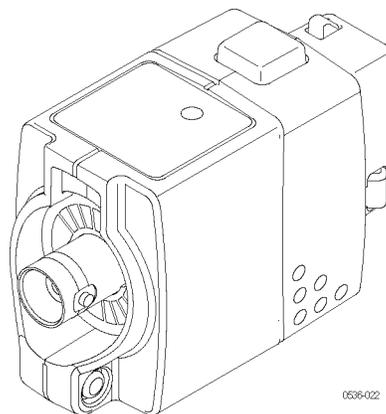
感電や火災を避けるために、プローブ本体とプローブの出力ケーブルは被測定回路に近づけないようにしてください。プローブ本体と出力ケーブルは、被測定回路と接触してもよいように設計されてはいません。

TPA-BNC 型アダプタ

このオプション・アクセサリを使用すると、P5202A 型、P5205A 型、および P5210A 型プローブを TekVPI プローブ・インタフェースを持つオシロスコープで使用することができます。

オシロスコープは TPA-BNC 型アダプタを認識すると、これらの TekProbe インタフェースのプローブに電源を供給し通信を行います。

注： P5200A 型プローブは TekVPI インタフェースの BNC コネクタと直接接続でき、このアダプタは不要です。



警告： 感電や火災の危険を減らすために、TPA-BNC 型アダプタの定格を超えないようにしてください。アダプタを 30 VAC、42 Vpk、または 60 VDC を超える電圧に接続しないでください。

ハンドヘルド・プローブ (TP175-FL)

これらのプローブは、バナナ入力リードおよび延長リードに差し込みます。チップにはネジが切られており、プローブに付属するチップ・アクセサリを取り付けることができます。

プローブ・チップの絶縁被覆は、CAT III および CAT IV 定格の長さに伸縮します。プローブ本体を回し、回転が止まる位置を超えると、プローブは CAT セットアップでロックされます。



警告：測定を始める前に、常にプローブ本体が適切な位置でロックされていることを確認してください。ロックしていない中間位置では使用しないでください。

定格：

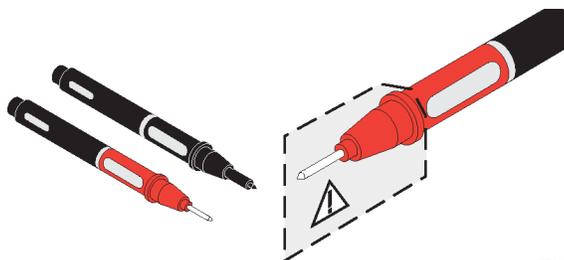
1,000 V CAT II

1,000 V CAT III

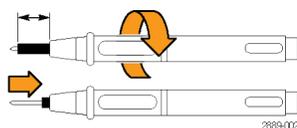
10 A

注文用当社部品番号：

TP175-FL (1 ペア)



0536-055



2889-002

ポーゴ-ピン・チップ・アダプタおよびチップ

これらの絶縁アダプタは、TP175-FL 型ハンドヘルド・プローブのネジ・チップに取り付けられ、ポーゴ-ピンを保持します。



警告： 感電を避けるために、ポーゴ-ピン・チップ・アダプタは TP175-FL 型プローブにしっかりと固定してください。

アダプタには 2 種類のペアのポーゴ-ピンが付属しています。鋭いコーン状の先端を持つものと、柔らかい導体に固定するためのノコギリ状のエッジを持つものの 2 種類です。



警告： ポーゴ-ピンの先端は鋭くなっています。けがをしないように、ピンを取り付けたり取り外す際は取り扱いに注意してください。



警告： アーク放電の危険を避けるために、ポーゴ-ピンがアダプタに完全に差し込まれていることを確認してください。チップの露出した金属部分が 19 mm (0.75 インチ) またはそれ以下であることを確認してください。



警告： THDP シリーズおよび TMDP シリーズのプローブで使用すると、プローブの入力定格は 150 V CAT II、0.1 A に低下します。この定格を超える電圧の測定に、このポーゴ-ピン・アダプタは使用できません。

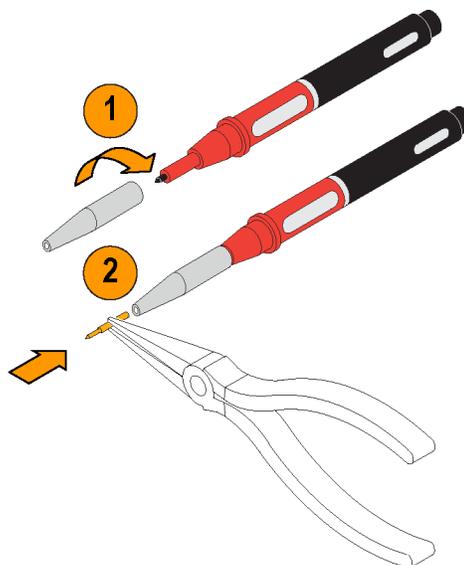
最大定格：

150 V CAT II

0.1 A

注文用当社部品番号：

020-3107-xx (2 種類のチップ・アダプタを含む、
2 本のコーンチップ・ポーゴ-ピン、および
2 本のノコギリ状チップのポーゴ-ピン)



0540-032

延長用テスト・プローブ・アダプタ

これらのアダプタは、ハンドヘルド・プローブのネジ・チップに回して取り付けます。

これらのアダプタは高密度回路で使用します。これらの鋭いチップは、小型コンポーネントのリードや回路基板のフィーチャに接触させることができます。



警告： THDP シリーズおよび TMDP シリーズのプローブで使用すると、プローブの入力定格は 300 V CAT II、1 mA に低下します。この定格を超える電圧の測定に、この延長ピン・アダプタは使用できません。



警告： このアダプタのチップは非常に鋭くなっています。けがをしないよう、先端には触れないでください。

最大定格：

300 V CAT II

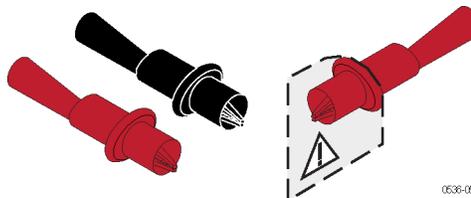
3 A

注文用当社部品番号：

012-1724-xx (1 ペア)

ワニロクリップ

ワニロクリップで大きなボルトやバス・バーに容易に接続できます。コネクタは安全のために二重絶縁されています。クリップは、ハンドヘルド・プローブのネジ・チップに回して取り付けます。



0538-056

最大定格：

1,000 V CAT III

10 A

プローブには一対のクリップが付属しています。

注文用当社部品番号：

344-0670-xx (1 ペア)

表 2: P5200A シリーズ・プローブのオプション・アクセサリの電圧ディレーティング

プローブとアクセサリを組み合わせたコモン・モード 電圧および対地入力電圧の定格 ^{1, 2}			
アクセサリ	P5202A	P5200A & P5205A	P5210A
ハンドヘルド・プローブ ³ (TP175-FL)	450 V CAT I 300 V CAT II	1,000 V CAT II 600 V CAT III	1000 V CAT I 1000 V CAT III
いずれかのスタイルのピン付きポーゴー・ピン・チップ・アダプタ (020-3107-xx)	150 V CAT II	150 V CAT II	150 V CAT II
延長テスト・プローブ・アダプタ (012-1724-xx)	300 V CAT I 300 V CAT II	300 V CAT II	300 V CAT I 300 V CAT II
ワニ口クリップ (344-0670-xx)	450 V CAT I 300 V CAT II	1,000 V CAT II 600 V CAT III	1,000 V CAT I 1,000 V CAT III

¹ これらのアクセサリを使用する場合、プローブの動作高度は 2,000 m (6,560 フィート) に低下します。

² これらのアクセサリを使用する場合、電圧定格と CAT 定格は本表に示すように低下します。

³ CAT III 回路で TP175-FL テスト・プローブを使用する場合は、アーク放電の危険を避けるために、チップは縮めなければなりません。縮めた位置で、露出した金属チップは約 3.7 mm (0.15 インチ) です。

TPH1000 型プローブ・ホルダ

TPH1000 型プローブ・ホルダを使用すると、オプションのハンドヘルド・プローブ (TP175-FL) を使用する際に、両手を自由にすることができます。プローブ・ホルダは、他の多くの Tektronix プローブでも使用することができます。

差動測定をハンズフリーで行うには次の 2 つの方法があります。

- TPH1000 型プローブ・ホルダを 2 つ使用してハンドヘルド・プローブを使用します (テストポイントの間隔が >1 インチの場合には必要)。
- テスト・ポイントの間隔が <1 インチの場合には、ハンドヘルド・プローブを THV ブラウザ (次ページを参照) と共に使用します。

プローブ・ホルダを使用するには、次のようにします。

1. Tektronix ロゴが被試験回路に向かう方向で、プローブをホルダの 1 つの開口部に差し込みます。
2. プローブを押し込んでしっかり留めます。



注意: けがをしないように、常にプローブの手持ち部をしっかりと握ってプローブの挿入や引き抜きを行ってください。

3. テスト・ポイントへの接触中は安定を維持できるように、プローブ・ホルダの基部を回路の上に置きます。プローブ・ホルダの重量により、プローブの位置が保たれます。



警告: ゴム足なしでプローブ・ホルダを使用しないでください。内部の金属が露出し、感電することがあります。



注意: IC ピンなど、高密度の接点がある回路のプロービングを行う場合は、隣接した IC ピンや回路の短絡を防ぐように設計された絶縁プローブ・チップのアクセサリを使用することを推奨します。

注文用当社部品番号:

TPH1000



0540-022



0540-023



0592-012

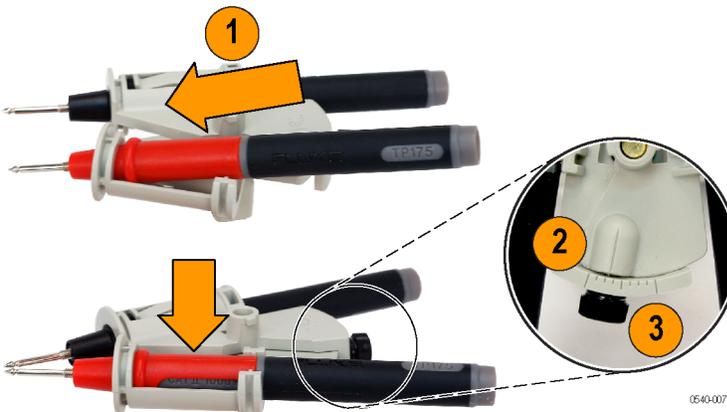
THV ブラウザ

THV ブラウザを使用すると、2本のハンドヘルド・プローブ・チップ間の距離をセットして一定に保つことができ、その後は片手で回路の各ポイントに当たることができます。



ハンドヘルド・ブラウザ:

1. TP175-FL 型ハンドヘルド・プローブを留め穴に差し、プローブを押し込んで固定します。
2. 蝶ネジを緩め、プローブ・チップ間の距離を調整します。蝶ネジの近くにある目盛は、その距離を表します。最大距離は約 1 インチ (2.54 mm) です。
3. 蝶ネジを締めます。これで回路の各ポイントに当たることができます。

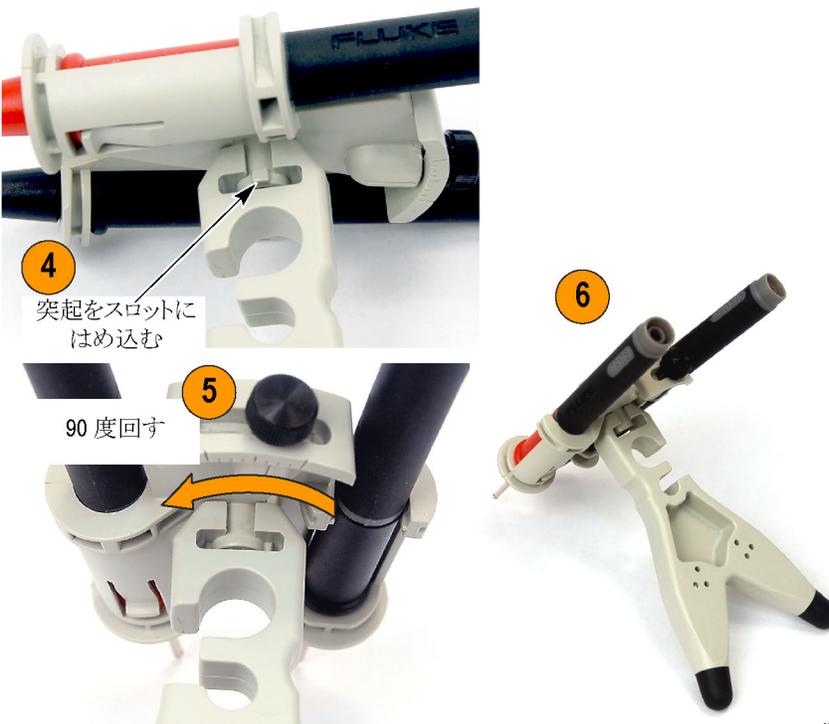


警告: けがや回路を短絡しないために、THV ブラウザを高電圧回路に落とさないように注意してください。ブラウザには金属の部品が含まれていません。

ハンズフリー・プロービング:

安定したハンズフリーの接続を行いたい場合は、ブラウザを TPH1000 型プローブ・ホルダに付けます。

4. プローブ・ホルダ先端のスロットをブラウザ底部のピンに合わせます。
5. プローブ・ホルダ上の Tektronix ロゴがテストする回路に向くように、ブラウザを 90° 度回します。
6. ホルダを安定した表面上に置いて、プローブ・チップの位置をテスト・ポイントに合わせます。



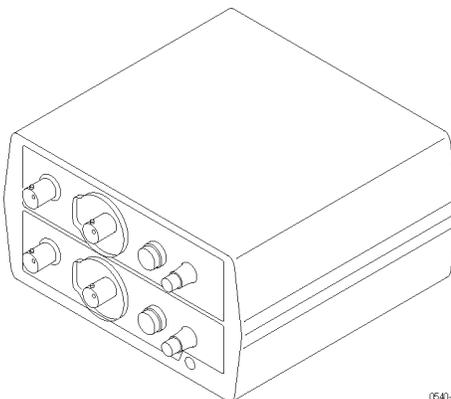
注文用当社部品番号:
THV ブラウザ

Tektronix 1103 型プローブ電源: P5202A 型、P5205A 型、および P5210A 型プローブのサービス手順を実行するには、1103 型電源を使用します。

1103 型電源は、プローブに電源を供給し、プローブの出力信号を電源のフロント・パネルにある BNC コネクタに出力します。

注文用当社部品番号:

1103



0540-037

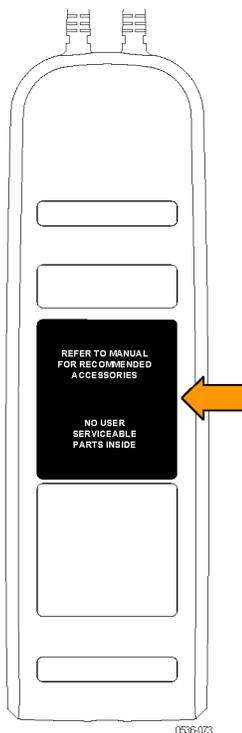
交換用ラベル(安全項目、サービス専用): プローブの背面には、サービス専用の調整用開口部があり、再使用可能なラベルで覆われています。プローブの安全を維持するために、プローブにサービス調整を施した後は、ラベルを元に戻さなければなりません。

元のラベルが破損したり紛失した場合は、交換用ラベルを注文してください。

注: ラベルはシリアル番号が C020000 以上のユニットのみに使用できます。

注文用当社部品番号:

335-2913-xx



0536-073

オプション

サービス・オプション

- オプション C3 型: 3 年間の校正サービス
- オプション C5 型: 5 年間の校正サービス
- オプション D1 型: 校正データ・レポート
- オプション D3 型: 3 年間の校正データ・レポート(オプション C3 付き)
- オプション D5 型: 5 年間の校正データ・レポート(オプション C5 付き)
- オプション R3 型: 3 年間の修理サービス
- オプション R5 型: 5 年間の修理サービス

基本操作

P5200A シリーズ高電圧差動プローブを効果的に安全に使用できるように、このセクションでは安全限度、動作特性およびプロービング方法に関する重要事項について説明します。

動作特性とプロービング・テクニック

このセクションでは、P5200A シリーズ高電圧差動プローブの動作特性について説明し、またプローブの性能を最大限引き出すためのテクニックについても触れます。

動作限度

プローブには、ATTEN ボタンで選択できる 2 つの動作レンジがあります。これらのレンジで測定可能な最高差動電圧が決定します。これらのレンジと電圧限度はプローブのモデルにより異なります (表 3 参照)。

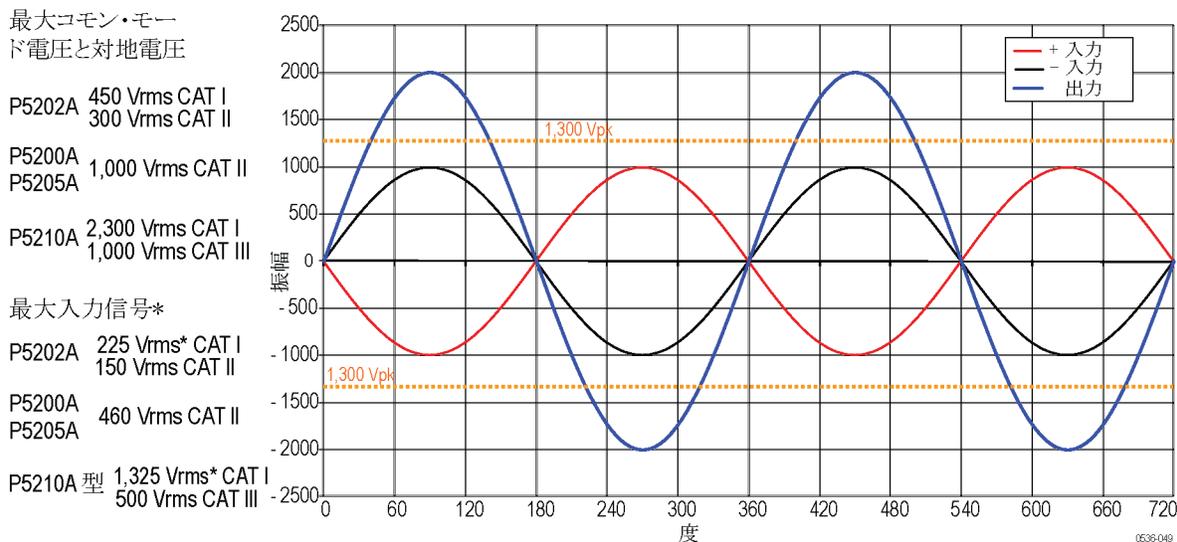
表 3: 差動電圧限度 (ピーク)

プローブ・モデル	低減衰レンジ (20X/50X/100X)		高減衰レンジ (200X/500X/1000X)	
	電圧限度	過負荷トリップ・レベル	電圧限度	過負荷トリップ・レベル
P5200A (50X/500X)	130 V	>140 V	1,300 V	>1,400 V
P5202A (20X/200X)	64 V	>70 V	640 V	>700 V
P5205A (50X/500X)	130 V	>140 V	1,300 V	>1,400 V
P5210A (100X/1000X)	560 V	>600 V	5,600 V	>6,000 V

測定しようとする入力信号は、相互間の差動電位および各入力の対地振幅 (コモン・モード電圧仕様) の両方について考慮しなければなりません。コモン・モード最高電圧の制限は、P5202A 型プローブの 450 V から P5210A 型プローブの 2,300 V まで、プローブにより異なります。測定作業でプローブを選択する際には、これら 2 項目の仕様について考慮する必要があります。このことを、次ページ以降に図で説明します。

測定例

例 1: 相互に 180° 位相のずれたそれぞれが 1,000 V_{pk} の正弦波を測定する場合があります。DC オフセットはない(0 V 中心)ものとします(図 2 参照)。

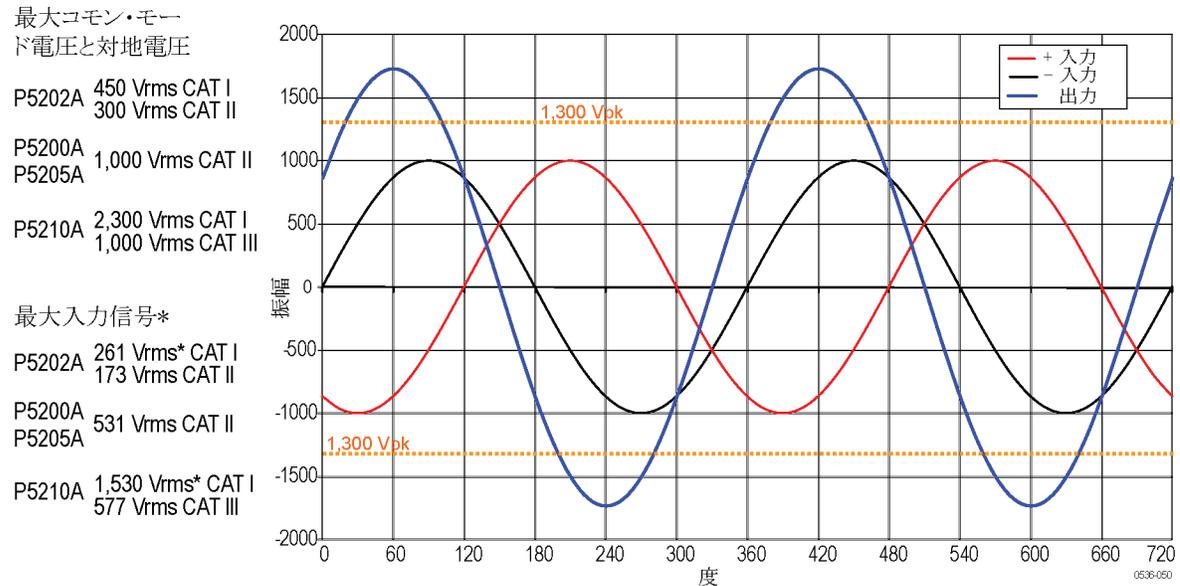


*振幅が同一で位相が 180° 度ずれた正弦波形がこれらの電圧を超えると、最大差動定格を超えることとなり、波形のクリッピング、測定確度の誤差、また感電と火災の危険が増大する結果となります。

図 2: 180 度位相のずれた等振幅の 2 つの波形の測定

両波形の電圧が等しければ、差動測定では各信号入力の 2 倍になります(この例では 2,000 V_{pk})。P5200A シリーズ・プローブで測定可能な最高差動電圧仕様を見ると、P5210A 型プローブではこの信号を測定することができます(30 ページの表 6 参照)。参考として、上図にはコモンモード電圧と対地電圧の実効値定格および各プローブモデルの最大入力信号が示されています。

例 2: 次に、前の例と同じ波形で位相が相互に 120° ずれている場合を考えましょう(図 3 参照)。この位相関係では、各信号入力 1.732 倍の差動電圧、つまり $1732 V_{pk}$ が生じます。この値は例 1 の入力間の電圧よりも低いです、それでも P5200A 型および P5205A 型プローブの差動定格 ($1,300 V_{pk}$) を超えるので、P5210A 型プローブを使用しなければなりません。



*振幅が同一で位相が 120° 度ずれた正弦波形がこれらの電圧を超えると、最大差動定格を超えることとなり、波形のクリッピング、測定精度の誤差、また感電と火災の危険が増大する結果となります。

図 3: 120° 度位相のずれた等振幅の 2 つの波形の測定

入力での振幅が等しいこれらの例では、P5200A 型および P5205A 型プローブを使用して、信号が 180° 度ずれている場合は、各入力 $1,300 V/2 = 650 V_{pk}$ ($460 V_{rms}$)、また 120° 度ずれている場合は $1,300 V/1.732 = 750 V_{pk}$ ($530 V_{rms}$) まで測定することができます。この種の測定を行う場合は、使用する特定のプローブ・モデルの最高差動入力電圧を超えないように、最高入力信号電圧 (V_{rms}) の各数値を参照してください。

例 3: 作業は、同位相でそれぞれの振幅が $300 V$ の 2 つの AC 波形を測定することです。しかし、1 つの波形はグランドが中心 (- 入力) で、他方は $400 VDC$ のオフセットを中心 (+ 入力) としています。コモン・モード電圧は $300 V_{rms}$ ですが、両入力の対地最高電圧 (コモン・モード電圧 + 信号波形) も考慮しなければなりません。(- 入力) の対地電圧は $300 V_{rms}$ ですが、(+ 入力) の対地電圧は $700 V_{rms}$ ($300 V_{AC,rms} + 400 V_{DC,rms}$) です。これにより、(+ 入力) が P5202A 型プローブの対地入力最大定格を超えるので、この測定にこのプローブは使用できません。この場合は他のプローブを使用しなければなりません。定格が次に近いプローブは P5200A 型または P5205A 型です。

オーバーレンジの検出

動作レンジ外の差動電圧ではプローブの回路がオーバードライブされ、出力信号が歪みます。差動オーバーレンジとなると、プローブがこの状態を検出し、オーバーレンジ・インジケータが点灯します。Audible Overrange がオンの場合はアラーム音も鳴ります。



警告： オーバーレンジ・インジケータは、プローブ入力におけるコモンモード電圧または対地電位のオーバーレンジ条件は検出しません。オーバーレンジ・インジケータは、入力端子の + と - 間の差を検出するだけです。測定する際は、プローブのコモンモード電圧または対地入力電圧の定格を超えないようにしてください。

不確かな場合は、差動測定を行う前に、各点のシングルエンド測定をまず行ってください。片側の入力リード(- 入力)をグランドにつなぎ、次に他端のリード(+ 入力)を測定ポイントにつなぎます。

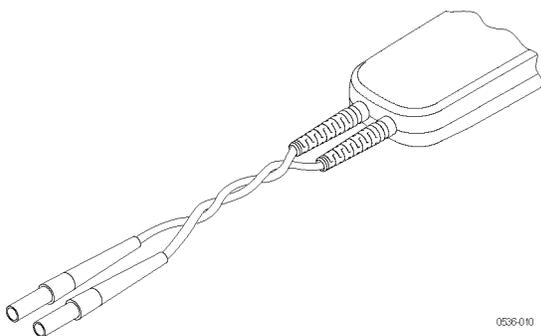
同相除去

同相除去比 (CMRR) は、両方の入力に共通した信号を除去するプローブの指定された能力を表します。より正確には、CMRR はコモン・モード・ゲインに対する差動ゲインの比率です。比率が高いほどコモン・モード信号を除去するプローブの能力も高くなります。

入力周波数が高いほど同相除去比は低下します。たとえば、60 Hz、500 V_{pp} のライン電圧をプローブの両方の入力リードに接続すると、プローブは信号を 80 dB (代表値) 分除去し、オシロスコーブ画面上で信号は 50 mV_{pp} として表示されます。

入力リードのツイスト

入力リード線をツイストすると、高 EMI 環境下で入力リードに誘導されるノイズをキャンセルする効果があります。



0536-010

プローブの負荷

回路要素にプローブ・チップを接触させると、回路に新たな抵抗、キャパシタンス、インダクタンスが生じるようになります。信号源の周波数とインピーダンスにより、プローブがどれだけの負荷を被測定回路に与えるかが決まります。信号源の周波数が 1 KHz を超えると、プローブの入力インピーダンスが低下し始めます。

信号源のインピーダンスに比してプローブのインピーダンスが低いほど、被測定回路に与えるプローブの負荷が増します。周波数と入力インピーダンスの関係については、「仕様」のセクションを参照してください。グラフに示すように、インピーダンスと周波数が比較的低い信号源では、プローブの負荷の影響はほとんどありません。

仕様

記載されている仕様は、Tektronix MSO/DSO4000 シリーズ・オシロスコープに取り付けた P5200A シリーズ・プローブに適用されます。プローブを他のオシロスコープに使用した場合、オシロスコープの入力インピーダンスが 1 M Ω で帯域幅がプローブと同じか、それ以上である必要があります。プローブは記載範囲を超えない環境に置かれ、少なくとも 20 分間ウォーム・アップされている必要があります (表 5 参照)。プローブの保証仕様を検証する前に、プローブの校正をホスト機器上で実行する必要があります。P5200 シリーズ・プローブの仕様には、保証特性、代表特性、および公称特性の 3 種類があります。

保証仕様

保証特性とは、許容限界または一定のタイプ・テスト要件の範囲内で保証されている性能です。(表 4 参照)。

表 4: 保証電気仕様

仕様	P5200A 型	P5202A	P5205A	P5210A
立上り時間 (小信号、10-90%、 +20 °C ~ +30 °C)	≤ 7.0 ns	≤ 3.5 ns ¹ (ス ルー・レート (≥ 240 V/ns (200X))	≤ 3.5 ns ¹ (ス ルー・レート (≥ 590 V/ns (500X))	≤ 7.0 ns
ゲイン確度	$\pm 2\%$			

¹ 振幅の大きい信号の場合に限り、出力はスルー・レートになります。

表 5: 保証環境仕様

仕様	P5200A 型	P5202A	P5205A	P5210A
温度				
動作時	0 °C ~ 40 °C (32 °F ~ +104 °F)			
非動作時	-30 °C ~ +70 °C (-22 °F ~ +158 °F)			
湿度				
動作時	5 ~ 85% RH (相対湿度) 0 °C ~ +40 °C (32 °F ~ +104 °F)			
非動作時	5% ~ 85% RH、+40 °C (+104 °F) まで 5% ~ 45% RH、+40 °C ~ +70 °C (+104 ~ +158 °F)			
高度				
動作時	3,000 m (10,000 フィート)			
非動作時	0 ~ 15,240 m (50,000 フィート)			

代表仕様

代表仕様とは、代表値であり保証されていない性能です。

表 6: 代表的な電気仕様

仕様	P5200A 型	P5202A	P5205A	P5210A
測定可能な最高差 動電圧 (DC + ピーク AC) ¹	50X: ±130 V 500X: ±1,300 V	20X: ±64 V 200X: ±640 V	50X: ±130 V 500X: ±1,300 V	100X: ±560 V 1000X: ±5,600 V
(V _{rms})	50X: 92 V _{rms} 500X: 920 V _{rms}	20X: 45 V _{rms} 200X: 450 V _{rms}	50X: 92 V _{rms} 500X: 920 V _{rms}	100X: 396 V _{rms} 1000X: 2,650 V _{rms} ²
最高コモン・モード 電圧 (DC + ピーク AC) ³	50X: ±130 V 500X: ±1,300 V	20X: ±64 V 200X: ±640 V	50X: ±130 V 500X: ±1,300 V	100X: ±320 V 1000X: ±3,200 V
対地最高入力電圧 (V _{rms}) ³	1,000 V CAT II 600 V CAT III	300 V CAT II 450 V CAT I	1,000 V CAT II 600 V CAT III	1,000 V CAT III 2,300 V CAT I
CAT I 定格最高過電 圧トランゼント(OVT) (V _{Pk}) ⁴	NA	1,760 V	NA	2,250 V

¹ これは、プローブの(+)と(-)入力間で測定可能な最大レンジです。これらの限度を超えると、出力がクリップされることがあります(図 4 参照)。

² この定格は、コモン・モード電圧定格と入力対地電圧定格を超えていないことを前提としています。

³ 最大のコモン・モード定格と入力対地電圧定格は、各入力リードで可能な、グラウンドに対する最大値です。

⁴ CAT I 定格のみに適用されます。OVT ピークは通常、ピーク使用電圧の上で測定されます。

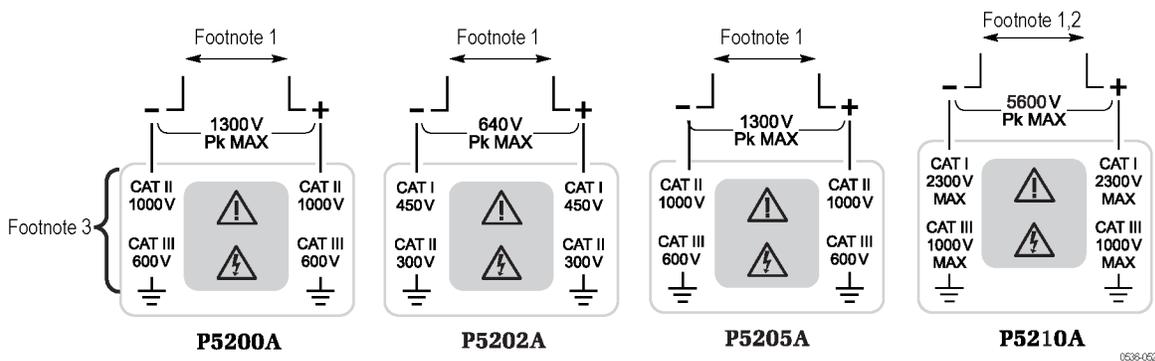


図 4: 各プローブ・ラベルに表示されている、表中のプローブの入力限度仕様に関する脚注

表 7: 代表的な電気仕様

仕様	P5200A 型	P5202A	P5205A	P5210A
帯域 (-3 dB)	DC ~ 50 MHz	DC ~ 100 MHz	DC ~ 100 MHz	DC ~ 50 MHz
オフセット・ゼロ (+20 °C ~ +30 °C)	±10 mV (50X & 500X) 出力換算	±200 mV (20X) ±2 V (200X) 入力換算	±500 mV (50X) ±5 V (500X) 入力換算	±1 V (100X) ±10 V (1000X) 入力換算
入力抵抗				
入力間	10 MΩ ±2%	5 MΩ ±2%	10 MΩ ±2%	40 MΩ ±2%
各入力とグラウンド間	2.5 MΩ ±2%	1.25 MΩ ±2%	2.5 MΩ ±2%	10 MΩ ±2%
入力キャパシタンス				
入力間	<2.0 pF	<2.0 pF	<2.0 pF	<2.5 pF
各入力とグラウンド間	<4.0 pF 片側につ つき	<4.0 pF 片側につ つき	<4.0 pF 片側につ つき	<5.0 pF 片側につ つき
同相 除去比 (20 ~ 30 °C)	DC: >80 dB 100 KHz: >60 dB 3.2 MHz: >30 dB 50 MHz: >26 dB	DC: >80 dB 100 KHz: >60 dB 3.2 MHz: >30 dB 100 MHz: >26 dB	DC: >80 dB 100 KHz: >60 dB 3.2 MHz: >30 dB 100 MHz: >26 dB	DC: >80 dB 100 KHz: >60 dB 3.2 MHz: >30 dB 50 MHz: >26 dB
伝搬遅延	21 ns	18 ns	18 ns	18 ns
DC オフセット・ドリフト (出力換算)	50 μV/°C			
帯域制限フィルタ	5 MHz フィルタ	5 MHz フィルタ	5 MHz フィルタ	5 MHz フィルタ
過負荷入力回復時間	<20 ns、5X の オーバードライブ (1/50 ゲイン) 後 に最終値の 10% まで	<20 ns、5X の オーバードライブ (1/20 ゲイン) 後 に最終値の 10% まで	<20 ns、5X の オーバードライブ (1/50 ゲイン) 後 に最終値の 10% まで	<30 ns、5X の オーバードライ ブ (1/100 ゲイ ン) 後に最終値の 10% まで
定格電源入力 (P5200A 型のみ)				
電圧	9 VDC			
電流	750 mA Max			
AC アダプタ (P5200A 型のみ)				
入力電圧	100 ~ 240 VAC	—	—	—
周波数	50 ~ 60 Hz	—	—	—
出力電圧および電 流	9 VDC / 2 A	—	—	—

表 8: 代表機械仕様

仕様	P5200A 型	P5202A	P5205A	P5210A
プローブ本体の寸法	185 mm x 56 mm x 25 mm (7.3 インチ x 2.2 インチ x 1.0 インチ)			
入力ケーブル長	22.9 cm (9 インチ)			

表 8: 代表機械仕様 (続き)

仕様	P5200A 型	P5202A	P5205A	P5210A
出力ケーブル長	1.5 m (59 インチ)	1.5 m (59 インチ)	1.5 m (59 インチ)	1.5 m (60 インチ)
重量(プローブのみ)	295 gm (9.4 oz)	323 gm (11.4 oz)	323 gm (11.4 oz)	340 gm (12.0 oz)

公称仕様

公称仕様は保証特性を示しますが、この特性に許容限界はありません。

表 9: 公称電気仕様

仕様	P5200A 型	P5202A	P5205A	P5210A
入力数	差動(+ および - の 2 入力)			
入力結合	DC のみ			
出力カップリング	DC カップリング			
出力終端	1 M Ω に終端			
減衰比	50X/500X	20X/200X	50X/500X	100X/1000X
差動過電圧検出レベル ¹	50X: >140 V 500X: >1,400 V	20X: >70 V 200X: >700 V	50X: >140 V 500X: >1,400 V	100X: >600 V 1000X: >6,000 V
入力換算ノイズ (V _{rms})	50X: <40 mV 500X: <120 mV	20X: <25 mV 200X: <60 mV	50X: <45 mV 500X: <130 mV	100X: <150 mV 1000X: <350 mV

¹ オーバーレンジ/過電圧インジケータは、プローブ入力端におけるコモンモード電圧または対地電位は検出しません。プローブのコモンモード電圧定格または対地入力電位定格を超えないようにするには、- 入力リードをグラウンドに接続し、+ 入力リードで各テスト・ポイントを個別にプロービングして、グラウンドに対して相対的にテスト・ポイントを測定します(シングルエンドの測定を行う)。

性能グラフ

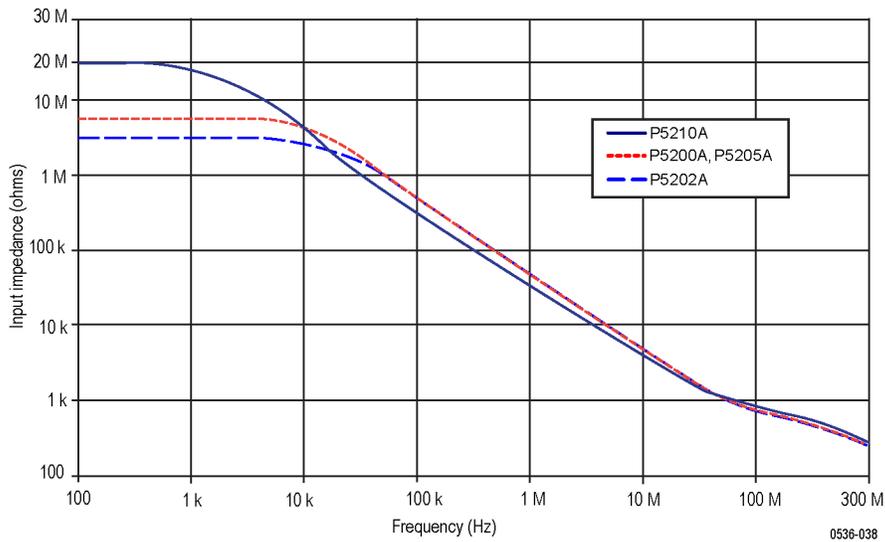


図 5: P5200A シリーズのインピーダンスのプロット

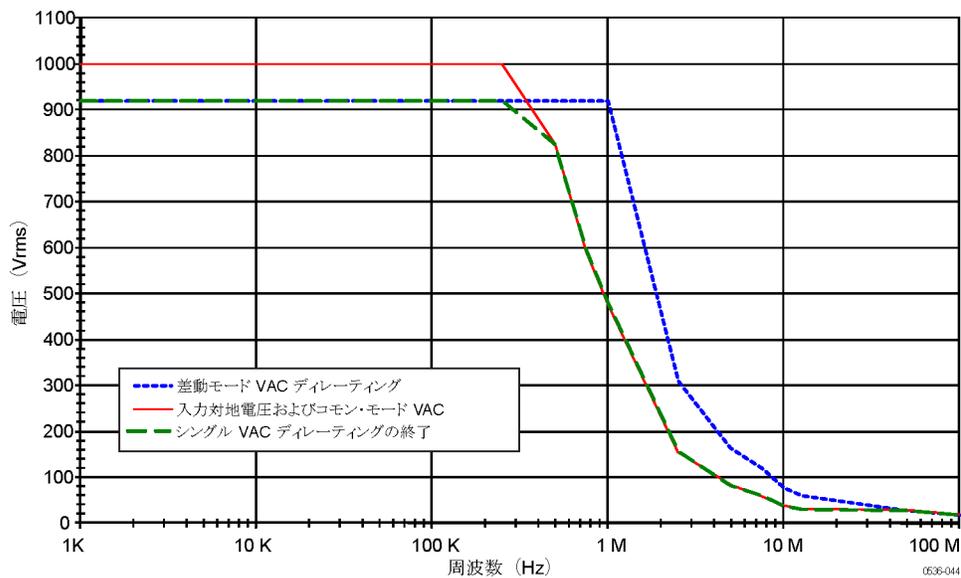


図 6: P5200A 型および P5205A 型の電圧ディレーティング曲線

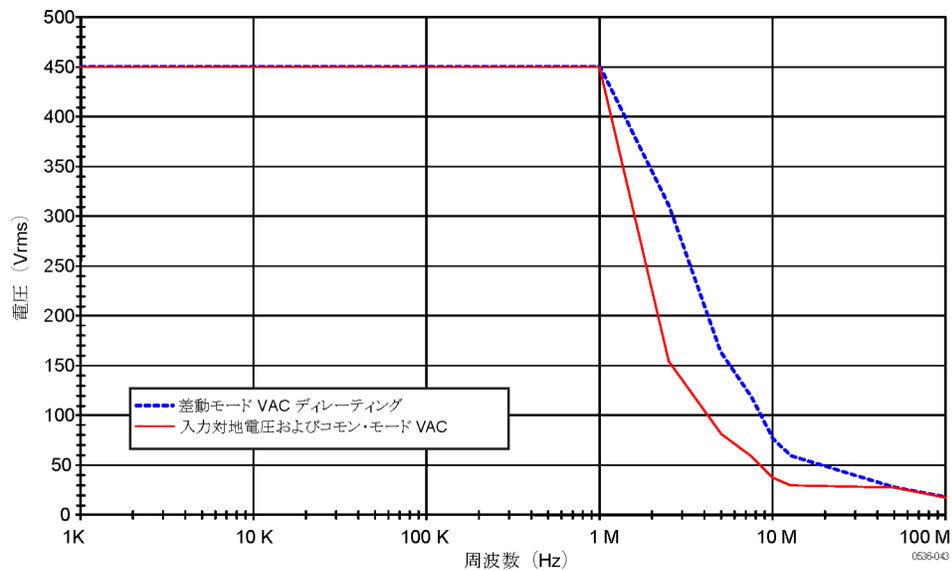


図 7: P5202A 型の電圧デイレージング曲線

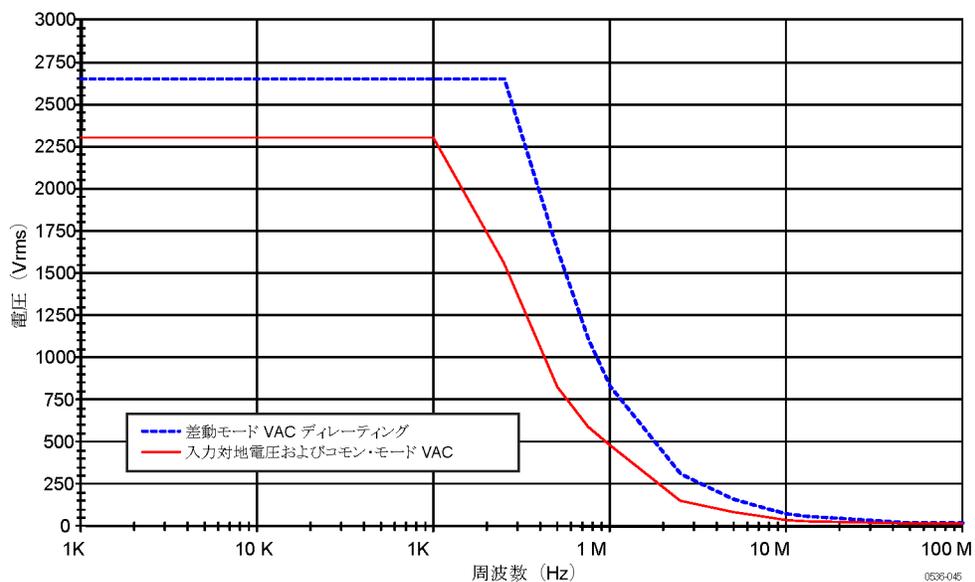


図 8: P5210A 型の電圧デイレージング曲線

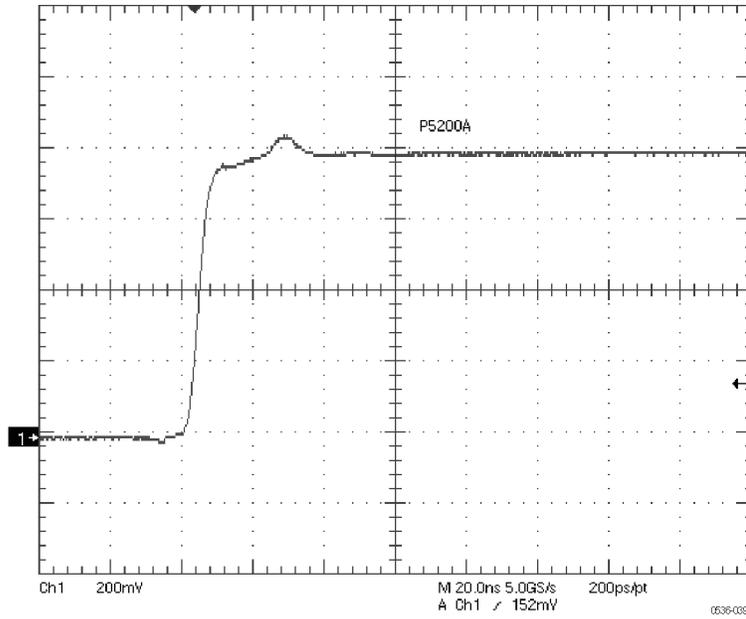


図 9: P5200A 型の立上り時間(代表値)

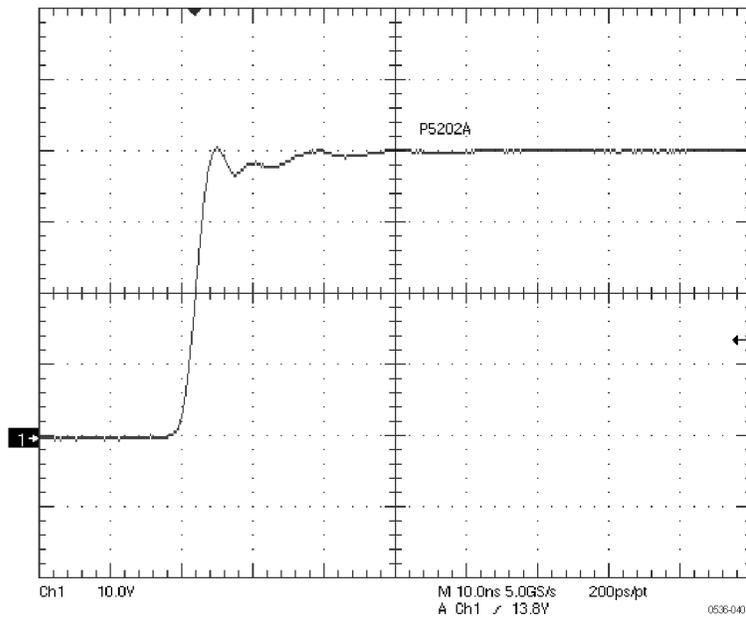


図 10: P5202A 型の立上り時間(代表値)

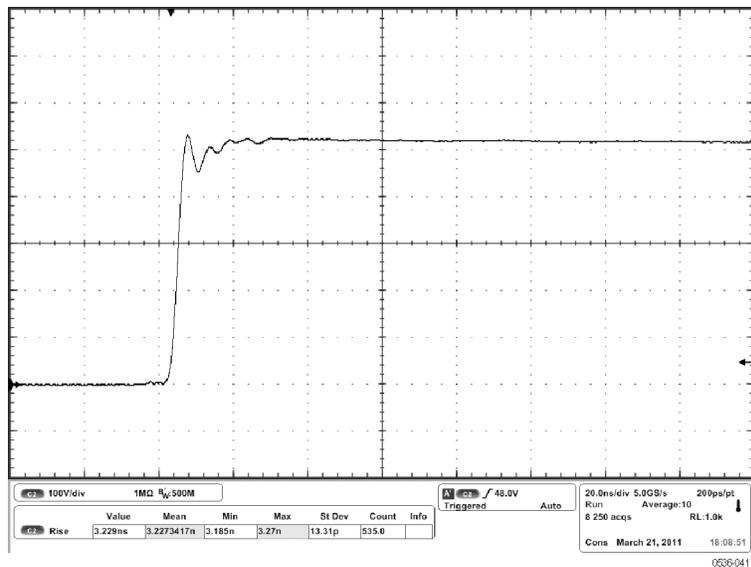


図 11: P5205A 型の立上り時間 (代表値)

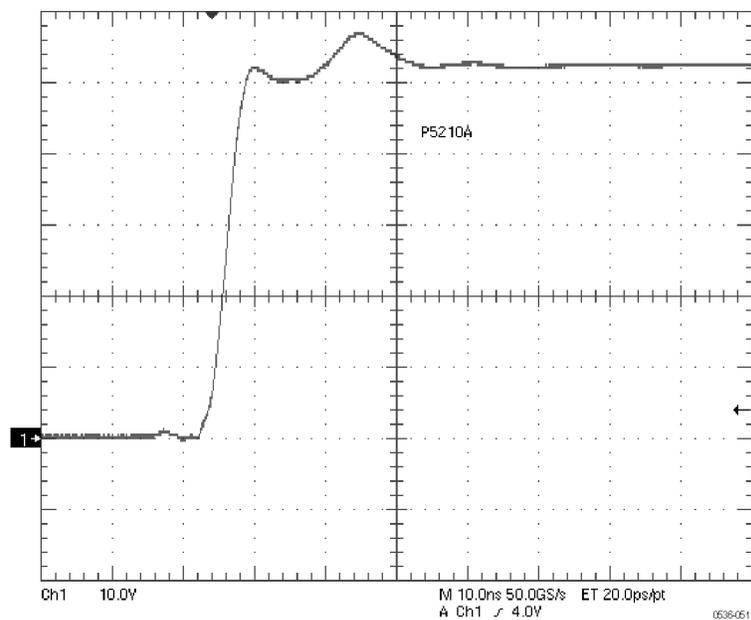


図 12: P5210A 型の立上り時間 (代表値)

性能検査

P5200A シリーズ・プローブの保証仕様を検証するには、次の手順を実行します。次の手順を開始する前に、検査記録をコピーし、その用紙を性能試験結果の記録に使用してください (41 ページの表 13 参照)。推奨される校正間隔は 1 年間です。

これらの手順では、次の仕様をテストします。

- ゲイン確度
- 立上り時間

必要な機器

性能検査手順を実行するために必要な機器を次の表に記します。コネクタの種類と数量は、使用する機器に応じて異なることがあります。

表 10: 必要な機器

説明	最低限の必要条件	製品の一例
オシロスコープ	500 MHz	Tektronix MSO/DSO4000
ゼネレータ	±100V 可変振幅、100 Hz 方形波、校正済み	Fluke 9100
パルス発生器	≥50 V、パルス幅 200 ns、立上り時間 ≤500 ps、1 KHz	Avtech AVR-E2-B-W-P
TekProbe 電源 ¹	TekProbe 入力	Tektronix 1103
デジタル・マルチメータ (DMM)	100 mV および 1 V の真の実効値の AC レンジ、確度 <±0.3 %	Tektronix DMM4040/4050
ケーブル	同軸、BNC、50 Ω、36 インチ	当社部品番号 012-0482-xx
アダプタ	BNC メス-デュアル・メス・バナナ	当社部品番号 103-0090-xx
アダプタ	BNC メス - SMA オス	当社部品番号 015-1018-xx
アダプタ	BNC メス - メス	当社部品番号 103-0028-xx
アダプタ	BNC オス - デュアル・オス・バナナ	Fluke PM9081
終端	BNC フィードスルー、50 Ω	当社部品番号 011-0049-xx
アッテネータ	BNC、50 Ω、2X	当社部品番号 011-0069-xx
プローブ・フック・チップ (2)	プローブのアクセサリ・キットに含まれる	当社部品番号 AC280-FL
アダプタ ¹	TekVPI - BNC	Tektronix TPA-BNC

¹ P5200A 型プローブでは不要です。

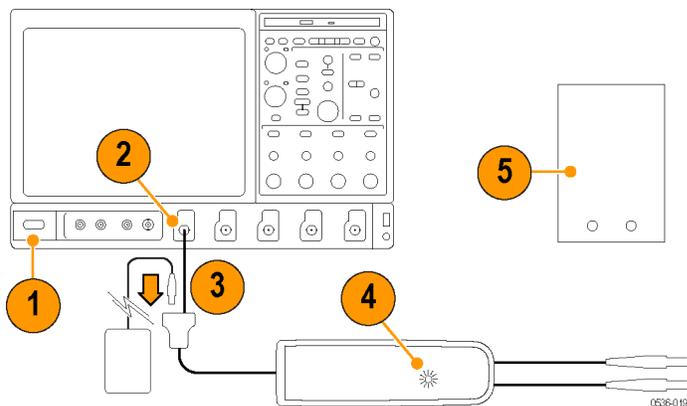
検査手順



警告: この手順では高電圧をプローブの入力に印加する必要があります。30 V_{rms} を超える電圧レベルのテストは、資格のあるサービス担当者のみが行えます。高電圧測定に関するすべての安全規則とガイドラインに従い厳守する必要があります。

テスト・セットアップ

1. オシロスコープの電源を投入します。
2. オシロスコープの任意のチャンネルにプローブを接続します(ウォーム・アップのため)。必要であれば TPA-BNC 型アダプタを使用します。
3. P5200A 型プローブをテストする場合は、AC アダプタの 9 VDC 出力プラグをプローブの DC 入力ジャックに接続し、次に AC アダプタを AC 電源に接続します。



4. プローブの LED が点灯することを確認します。
5. 残りのテスト機器の電源を入れ、プローブと機器を 20 分間ウォーム・アップします。
6. テスト結果を表に記入するために、検査記録のコピーを作成します (41 ページの表 13 参照)。

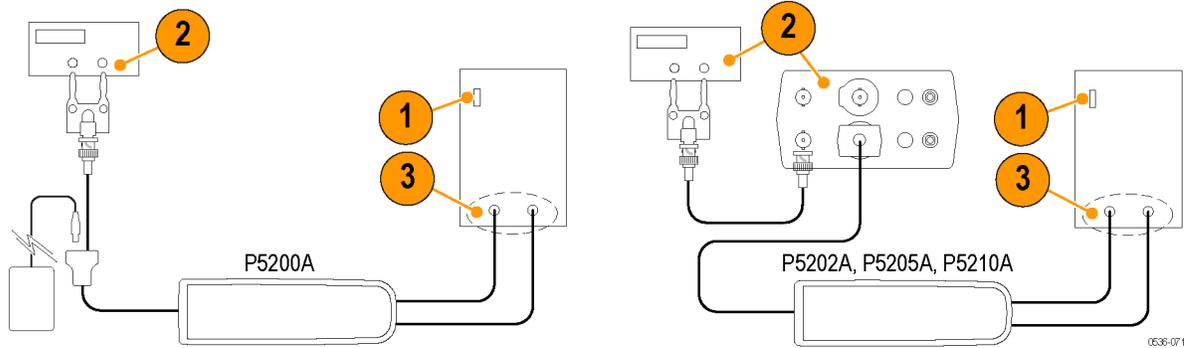
ゲイン確度



警告: 校正ゼネレータの出力端子と接続ケーブルには危険な電圧がかかります。ゼネレータに何らかの接続を行う前には、必ずゼネレータがスタンバイ・モードになっていることを確認してください。

このテストの機器とその設定は、プローブにより異なります。テストするプローブの個々の設定については、表を参照してください。

1. ゼネレータの出力がオフになっていることを確認します。
2. P5200A 型プローブをテストする場合は、プローブ出力を BNC -オス・バナナ・ジャック・アダプタを介して直接 DMM に接続します。その他の場合は、Tektronix 1103 型電源を介してプローブを DMM に接続します。



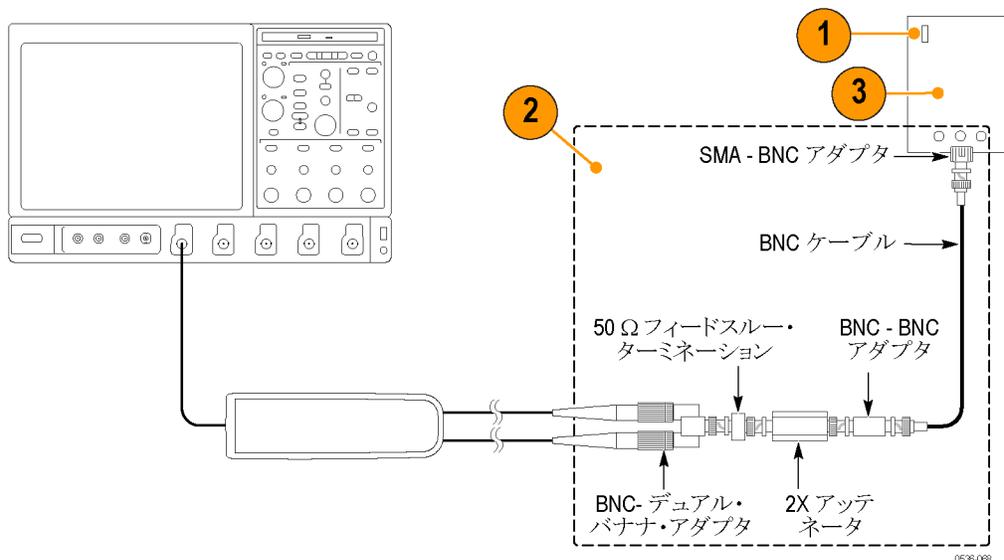
3. プローブ入力をゼネレータ前面の出力に接続します。DMM を AC 電圧に設定します。
4. プローブの減衰比を、テストするプローブの低い方のレンジに設定します (表 11 参照)。
5. ゼネレータの方形波の出力周波数と RMS 電圧(メイン・ディスプレイ上)を表に示されるテストするプローブの値に設定します。
6. ゼネレータ出力を有効にし、DMM に表示されるプローブ出力を検査記録に記入します。
7. ゼネレータの出力を無効にします。
8. プローブの減衰比を次のレンジに設定して、手順 5 から 7 を繰り返します。

表 11: ゲイン確度の機器設定

型名	プローブ	ゼネレータ出力		プローブ出力	
	レンジ	電圧 (rms)	周波数	期待値 (rms)	測定値 (rms)
P5200A 型	50X	25 V	100 Hz	500 mV ± 10 mV	
	500X	75 V	100 Hz	150 mV ± 3 mV	
P5202A	20X	20 V	100 Hz	1.0 V ± 20 mV	
	200 倍	60 V	100 Hz	300 mV ± 6 mV	
P5205A	50X	25 V	100 Hz	500 mV ± 10 mV	
	500X	75 V	100 Hz	150 mV ± 3 mV	
P5210A	100X	75 V	100 Hz	750 mV ± 15 mV	
	1000X	75 V	100 Hz	75 mV ± 1.5 mV	

立上り時間

1. ゼネレータの出力がオフであることを確認し、次にプローブをオシロスコープに接続します。
2. 下図に示すアダプタを使用し、プローブ入力をパルス・ゼネレータの出力に接続します。プローブの入力リードを平行にまっすぐにして、信号応答を最適化します。



3. パルス・ゼネレータの出力を 50 V、1 KHz、および 200 ns のパルス出力に設定します。(プローブの入力電圧は回路中の 2X アッテネータにより 25 V になります。)
4. オシロスコープを 5 V/div、10 ns/div、BW = 全帯域、平均 = 16 に設定します。
5. プローブの帯域幅を FULL、減衰比を表中の一番目のレンジに設定します。

表 12: 立上り時間テストの機器設定

プローブ		ゼネレータ出力		測定	
型名	レンジ	電圧	周波数	目標立上り時間	測定値
P5200A 型	50X	50 V	1 KHz	≤ 7 ns	
	500X	50 V	1 KHz	≤ 7 ns	
P5202A	20X	50 V	1 KHz	≤ 3.5 ns	
	200 倍	50 V	1 KHz	≤ 3.5 ns	
P5205A	50X	50 V	1 KHz	≤ 3.5 ns	
	500X	50 V	1 KHz	≤ 3.5 ns	
P5210A	100X	50 V	1 KHz	≤ 7 ns	
	1000X	50 V	1 KHz	≤ 7 ns	

6. ゼネレータの出力を有効にし、立上り時間が表中の目標立上り時間を超えていないかどうか調べます。立上り時間の測定には、オシロスコープの自動測定機能を使用します。
7. 立上り時間を検査記録に記録します。
8. プローブの減衰比を 2 番目のレンジに設定し、信号が表示されるように垂直軸 V/div を調整します。
9. 検査記録に立上り時間を記入し、ゼネレータの出力を無効にします。

検査記録

性能検査手順の結果を記録するために、この検査記録をコピーしてください。

表 13: P5200A シリーズ検査記録

プローブ・モデル:

検査証番号:

シリアル番号:

RH%:

温度:

検査者:

校正日:

プローブ検査	減衰比	最小値	入力	出力	最大値
ゲイン確度					
P5200A 型	50X	490 mV			510 mV
	500X	147 mV			153 mV
P5202A	20X	980 mV			1.020 V
	200X	294 mV			306 mV
P5205A	50X	490 mV			510 mV
	500X	147 mV			153 mV
P5210A	100X	735 mV			765 mV
	1000X	73.5 mV			76.5 mV
立上り時間					
P5200A 型	50X	—			7 ns
	500X	—			7 ns
P5202A	20X	—			3.5 ns
	200X	—			3.5 ns
P5205A	50X	—			3.5 ns
	500X	—			3.5 ns
P5210A	100X	—			7 ns
	1000X	—			7 ns

調整

P5200A シリーズのプローブの調整を行うには、次の手順に従います。(シリアル番号が C019999 以下のプローブについては、注とその後の表を参照してください。) これらの手順は、下記の仕様に対する調整を行う方法について説明するものです。

注: シリアル番号が C020000 以上のプローブにのみ内部調整機構が用意されています。(表 14 参照)。シリアル番号が C019999 以下のプローブで調整(ゼロ・オフセット以外)が必要な場合は、サービス受付センターに送る必要があります。

表 14: P5200A シリーズ・プローブの調整

仕様	調整方法	プローブのシリアル番号
ゼロ・オフセット	外部、ユーザ・プローブ・コントロールおよび補正ボックスの調整 ¹	すべてのシリアル番号
ゲイン確度	内部、PCB 上での調整	シリアル番号 C020000 以上
DC CMRR	内部、PCB 上での調整	シリアル番号 C020000 以上
LF 補正	内部、PCB 上での調整	シリアル番号 C020000 以上
AC CMRR	内部、PCB 上での調整	シリアル番号 C020000 以上

¹ P5200A 型プローブに補正ボックスは不要です。

注: プローブの調整は工場ですべての性能が最善となるようにプリセットされています。ただし、プローブの特性のチェックや最適化のために必要な場合は、これらの手順に従うことができます。

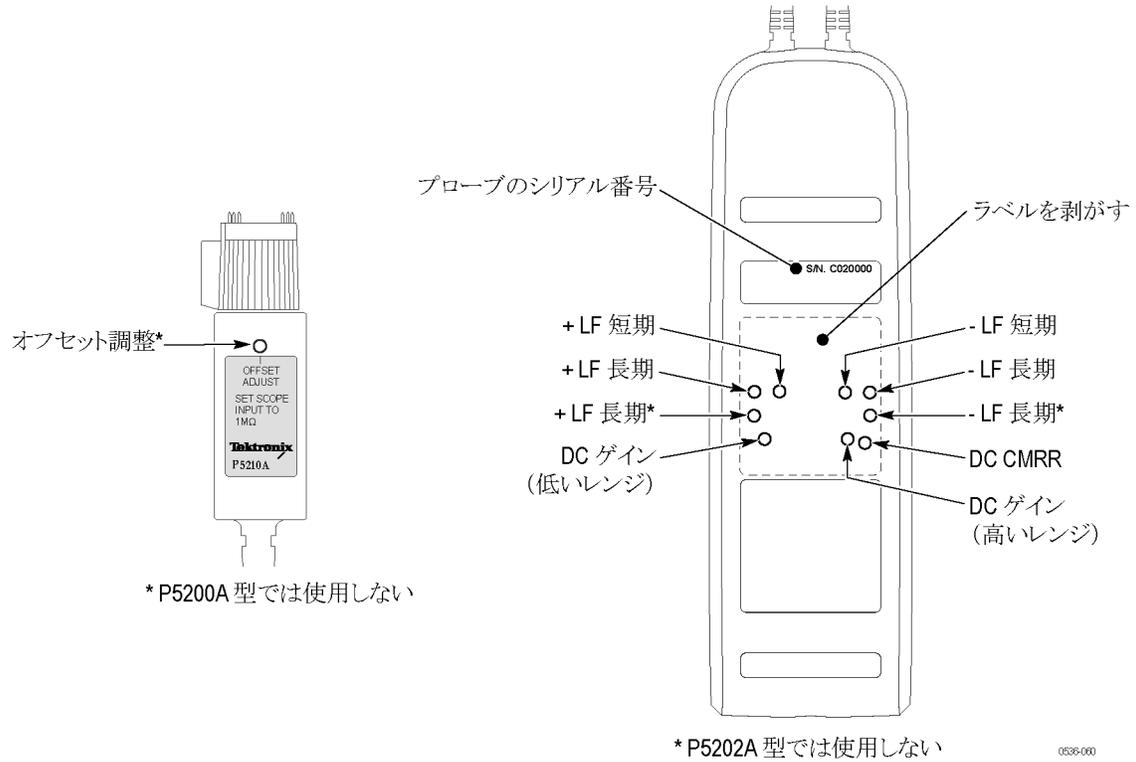


図 13: P5200A シリーズ・プローブのシリアル番号と調整箇所

必要な機器

調整手順を実行するために必要な機器を次の表に記します。コネクタの種類と数量は、使用する機器に応じて異なることがあります。

表 15: 調整用機器

説明	最低限の必要条件	製品の一例
オシロスコープ	500 MHz	Tektronix MSO/DSO4000
ゼネレータ	±100 V 可変、100 Hz 方形波、校正済み	Fluke 9100
TekProbe 電源 ¹	TekProbe 入力	Tektronix 1103
デジタル・マルチメータ (DMM)	100 mV および 1 V の真の実効値の AC レンジ、確度 $\pm 0.3\%$	Tektronix DMM4040/4050
ケーブル	同軸、BNC、50 Ω 、36 インチ	当社部品番号 012-0482-xx
アダプタ	BNC オス - デュアル・バインディング・ポスト	当社部品番号 103-0035-xx
アダプタ	BNC メス - SMA オス	当社部品番号 015-1018-xx
アダプタ	BNC オス - デュアル・オス・バナナ	Fluke PM9081
プローブ・フック・チップ (2)	プローブのアクセサリ・キットに含まれる	当社部品番号 AC280-FL
アダプタ ¹	TekVPI - BNC	Tektronix TPA-BNC
調整ツール	絶縁、頭部に直線の溝	当社部品番号 003-1433-xx
調整ツール ²	絶縁、頭部に直線の細溝	当社部品番号 003-1928-xx
交換用リア・パネル・ラベル ^{3 4}	再使用可能、調整用開口部を覆う裏面に接着剤付きのラベル	当社部品番号 335-2913-xx

¹ P5200A 型プローブでは不要

² CMRR の調整に必要

³ 元のラベルの裏面には再使用可能な接着剤が塗られています。ラベルの接着が不十分な場合は、交換用ラベルを注文してください

⁴ ゼロ・オフセットの調整ではラベルを剥がす必要はありません



警告: これらの手順では、プローブの背面から再使用可能なラベルを剥がす必要があります。プローブの調整完了後には、ラベルを元に戻さなければなりません。これを行わないと、測定中にプローブ内にかかる高電圧にユーザがさらされる可能性があります。

調整手順



警告: この手順では高電圧をプローブの入力に印加する必要があります。30 V_{rms} を超える電圧レベルのテストは、資格のあるサービス担当者のみが行えます。高電圧測定に関するすべての安全規則とガイドラインに従い厳守する必要があります。



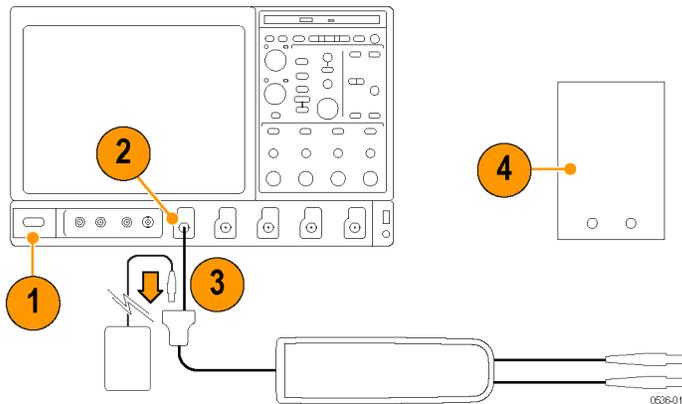
警告: これらの手順では、プローブの背面から再使用可能なラベルを剥がす必要があります。プローブの調整完了後には、ラベルを元に戻さなければなりません。これを行わないと、測定中にプローブ内にかかる高電圧にユーザがさらされる可能性があります。交換用ラベルが必要な場合は、「必要な機器」の表を参照して当社部品番号を調べてください。(44 ページの表 15 参照)。



警告: この手順では高電圧をプローブに印加する必要があります。手順で説明された調整を行う際には、絶縁されたツールのみを使用してください。そうしないと、感電する危険があります。

テスト・セットアップ

1. オシロスコープの電源を投入します。
2. プローブの出力をオシロスコープのチャンネル 1 に接続します。
3. P5200A 型プローブをテストする場合は、AC アダプタの 9 VDC 出力プラグをプローブの DC 入力ジャックに接続し、次に AC アダプタを AC 電源に接続します。

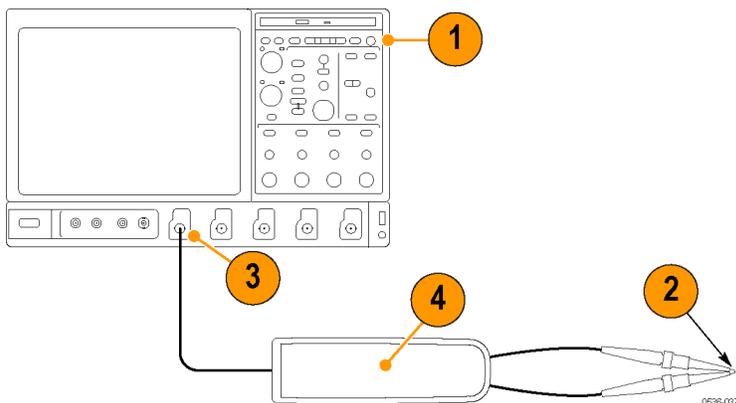


4. ゼネレータの電源を入れ、プローブとテスト機器を 20 分間ウォーム・アップします。

ゼロ・オフセット

- この手順は、3 つのプローブに共通です。P5200A 型プローブでは、オフセットはデジタル制御のみで行うので、ハードウェアの調整はありません。
- シリアル番号が C199999 以下のプローブでは、プローブの調整はゼロ・オフセットのみ可能です。

- シリアル番号が C020000 以上のプローブでは、背面のラベルを剥がさずに行える調整はゼロ・オフセットのみです。
 - 各レンジの調整は独立しており、レンジ間で相互の影響はありません。
1. オシロスコープのオフセットを 0 V に設定します。
 2. フック・チップでプローブの入力を一緒に接続します。



3. このステップは P5202A 型、P5205A 型、および P5210A 型プローブのみに適用されます。絶縁された調整ツールを使用して、プローブの補正ボックス内の OFFSET ADJUST ポットを中央に合わせます。
4. プローブの BANDWIDTH ボタンと ATTENUATION ボタンをプローブの OVERRANGE LED が点滅するまで押し続けます。
5. ボタンを放します。OVERRANGE LED は点滅し続けます。これは、デジタル制御のゼロ・オフセット調整が有効になっていることを示しています。
6. オシロスコープの表示を見ながら、プローブの BANDWIDTH ボタンと ATTENUATION ボタンを使用して、プローブのオフセット電圧が可能な限り 0 V に近くなるように設定します。BANDWIDTH ボタンでオフセット電圧が下がり、ATTENUATION ボタンでは上がります。

注： オシロスコープにスケーリングされた値でなく、実際の P5200A 型プローブの電圧を表示させるには、オシロスコープの減衰比設定をプローブの減衰比の設定に一致させる必要があります。オンスクリーンのプローブ設定メニューを使用します。メニューへのアクセス方法はオシロスコープのモデルにより異なります。

たとえば、DPO/MSO4000 シリーズのオシロスコープではフロントパネルのチャンネル・ボタンを押し、次に下のベゼルの More ボタンを Probe Setup (プローブ設定) がハイライトされるまで何回か押します。Probe Setup (プローブ設定) メニューにオシロスコープの減衰設定が表示されます。汎用ノブを回して、減衰比を変えます。

7. プローブの AUDIBLE OVERRANGE ボタンを押して、調整されたオフセット値を保存します。OVERRANGE LED の点滅が止まります。これは、オフセット値が保存され、調整が無効になったことを示します。
8. 残りの減衰レンジを選択して、ステップ 4 から 7 を繰り返します。

内部調整箇所へのアクセス

注：シリアル番号が C020000 以上のプローブにのみ内部調整機構が用意されています。(図 14 参照)。シリアル番号が C019999 以下のプローブで調整(ゼロ・オフセット以外)が必要な場合は、サービス受付センターに送る必要があります。

1. 調整箇所へアクセスできるようにするには、バックパネルの再使用可能なラベルを剥がします。再使用のために、裏面の接着剤を保護するように、ラベルを安全な場所に置きます。

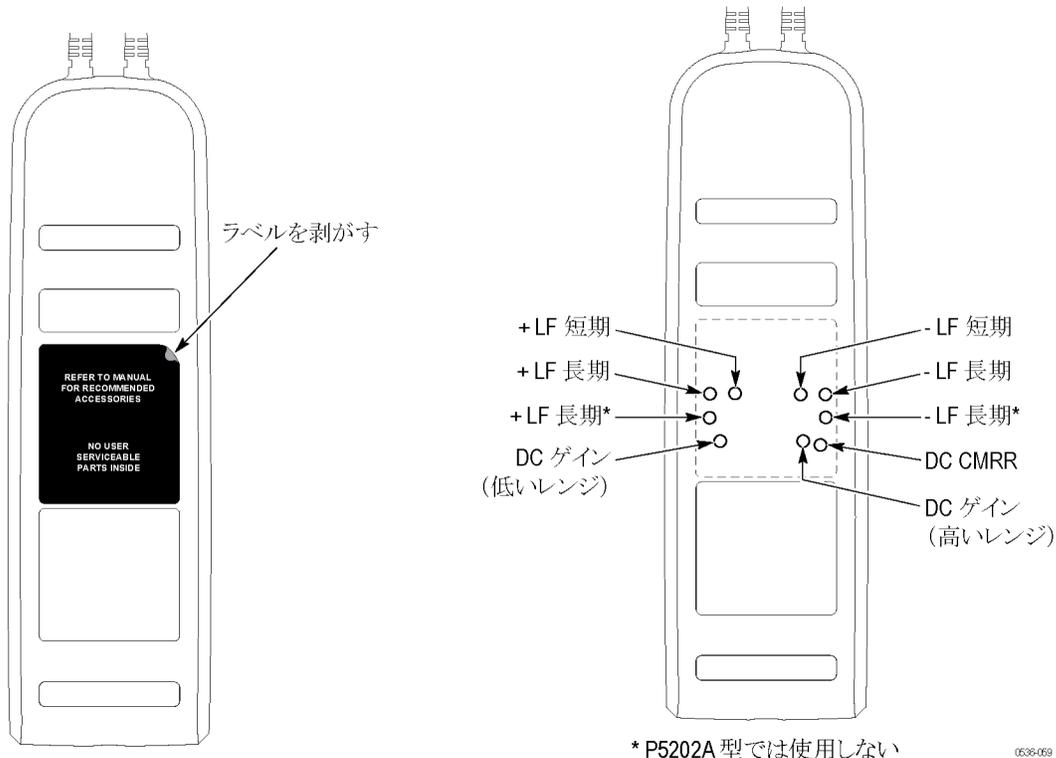


図 14: 内部調整箇所 (S/N C020000 以上のみ)



注意： 調整手順完了後には、再使用可能ラベルを元に戻さなければなりません。これを行わないと、測定中にプローブ内にかかる高電圧にユーザがさらされる可能性があります。交換用ラベルが必要な場合は、「必要な機器」の表を参照して当社の交換部品番号を調べてください。(44 ページの表 15 参照)。

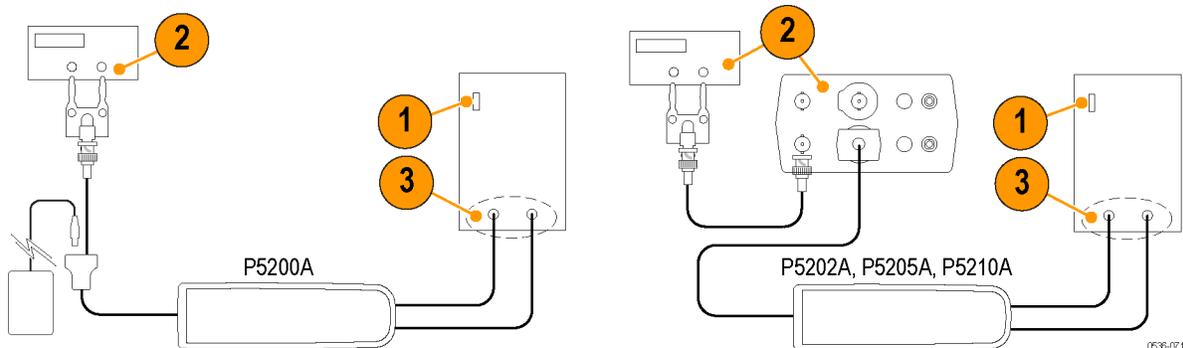
ゲイン確度

このテストの機器とその設定は、プローブにより異なります。テストするプローブの個々の設定については、表を参照してください。(49 ページの表 16 参照)。



警告： 校正ゼネレータの出力端子と接続ケーブルには危険な電圧がかかります。ゼネレータに何らかの接続を行う前には、必ずゼネレータがスタンバイ・モードになっていることを確認してください。

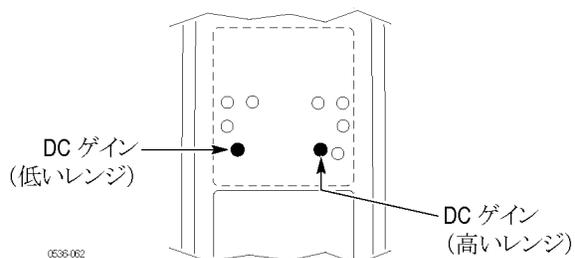
1. ゼネレータの出力がオフになっていることを確認します。
2. P5200A 型プローブを調整する場合は、プローブ出力を BNC -オス・バナナ・ジャック・アダプタを介して直接 DMM に接続します。その他の場合は、Tektronix 1103 型電源を介してプローブを DMM に接続します。DMM を AC 電圧に設定します。



3. プローブ入力をゼネレータ前面の出力に接続します (必要な場合はアダプタを使用)。
4. プローブの減衰比を、調整するプローブの低い方 (高感度) のレンジに設定します。
5. ゼネレータの方形波の出力周波数を表に示される調整するプローブの値に設定します。(49 ページの表 16 参照)。
6. ゼネレータの出力を有効にします。
7. プローブ内の低いレンジの DC ゲイン・ポットを期待出力値の $\leq 2\%$ に調整します。



警告: 調整には、絶縁されたツールのみを使用してください。そうしないと、感電する危険があります。



8. ゼネレータの出力を無効にします。
9. プローブの減衰比を次のレンジに設定し、ゼネレータの出力電圧を表に示される値に設定します。
10. ゼネレータの出力を有効にし、プローブ内の高いレンジの DC ゲイン・ポットを期待出力値の $\leq 2\%$ に調整します。
11. ゼネレータの出力を無効にします。

表 16: ゲイン確度調整の機器設定

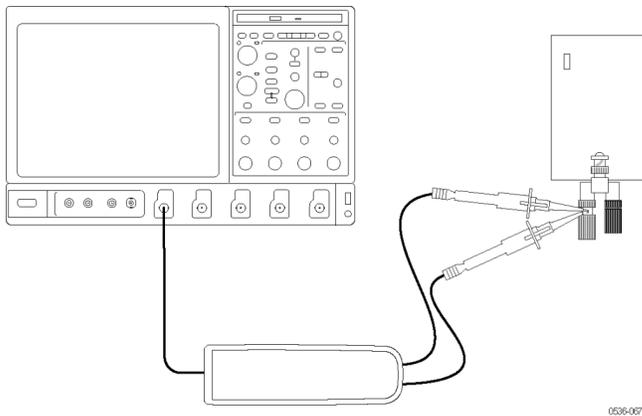
型名	プローブ	ゼネレータの方形波出力		プローブの出力電圧	
	レンジ	電圧 (rms)	周波数	期待値 (rms)	測定値 (rms)
P5200A 型	50X	25 V	100 Hz	500 mV ± 10 mV	
	500X	75 V	100 Hz	150 mV ± 3 mV	
P5202A	20X	20 V	100 Hz	1.0 V ± 20 mV	
	200X	60 V	100 Hz	300 mV ± 6 mV	
P5205A	50X	25 V	100 Hz	500 mV ± 10 mV	
	500X	75 V	100 Hz	150 mV ± 3 mV	
P5210A	100X	75 V	100 Hz	750 mV ± 15 mV	
	1000X	75 V	100 Hz	75 mV ± 1.5 mV	

DC CMRR



警告: 校正ゼネレータの出力端子と接続ケーブルには危険な電圧がかかります。ゼネレータに何らかの接続を行う前には、必ずゼネレータがスタンバイ・モードになっていることを確認してください。

1. ゼネレータの出力がオフになっていることを確認します。
2. 両方のプローブ入力をゼネレータの前面出力端子の赤い(+)バナナ・コネクタにつなぎます。必要なら、BNC-バナナ・アダプタを使用します。

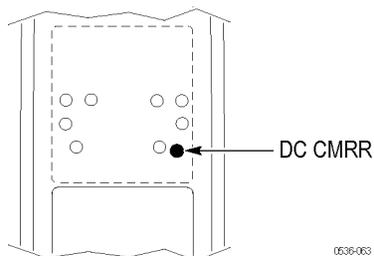


3. ゼネレータの正弦波出力を表に示す電圧と周波数に設定します。(50 ページの表 17 参照)。
4. オシロスコープの水平軸を 10 ms/div に設定します。
5. プローブの減衰比をプローブの低い方(高感度)のレンジに設定します。
6. ゼネレータの出力を有効にします。信号が表示されるようにオシロスコープの垂直軸を設定します。表示を安定させるには、ゼネレータのセンス出力を別のチャンネルにつないで、そのチャンネルでトリガします。

7. オシロスコープに表示される波形の振幅が最小になるように、小型のツールでプローブ内にある DC CMRR のポットを調節します。アベレージングか高解像度フィルタを使用して、40 Hz の信号が見やすくなるようにします。



警告： 調整には、絶縁されたツールのみを使用してください。そうしないと、感電する危険があります。



8. ゼネレータの出力を無効にします。

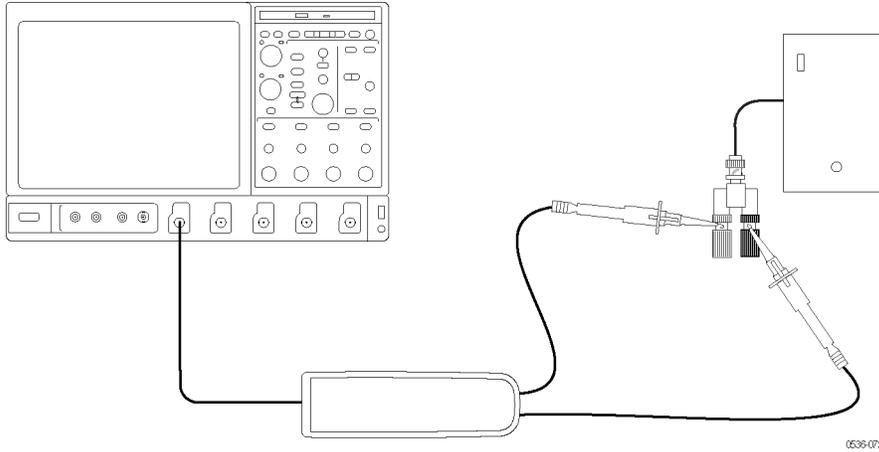
表 17: DC CMRR テスト機器の設定

型名	プローブ レンジ	ゼネレータの正弦波出力		
		電圧 (rms)	電圧 (p-p)	周波数
P5200A 型	50X	353.53 V	1,000 V	40 Hz
P5202A	20X	200 V	566 V	40 Hz
P5205A	50X	353.53 V	1,000 V	40 Hz
P5210A	100X	353.53 V	1,000 V	40 Hz

LF 補正

注: P5202A 型プローブには、長期 +LF 調整および長期 -LF 調整が各々 1 つしかありません。他の 3 つのプローブ・モデルには、長期 +LF 調整および長期 -LF 調整が各々 2 つあります。

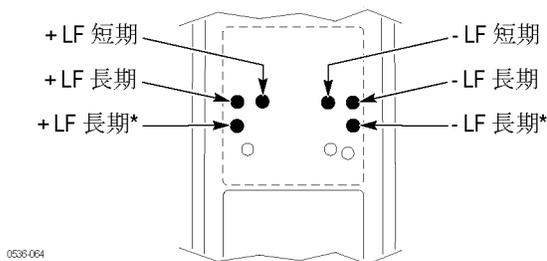
1. ゼネレータの出力がオフになっていることを確認します。
2. プローブ入力をゼネレータ背面の信号出力コネクタに接続します(必要な場合はアダプタを使用)。プローブの赤いリードを信号に、黒いリードをグランドにつなぎます。



3. プローブの減衰比を、調整するプローブの低い方のレンジに設定します。
4. オシロスコープの水平軸を $4 \mu\text{s}/\text{div}$ 、アキュイジション・モードをアベレージング 16 回に設定します。
5. ゼネレータの高速立上り出力(立上り時間波形)周波数を 10 KHz に設定します。
6. ゼネレータの高速立上り出力電圧を 50 V_{p-p} に設定します。
7. ゼネレータの出力を有効にします。信号が表示されるようにオシロスコープの垂直軸を設定します。
8. 長期 +LF、長期 +LF*、短期 +LF の順序で調整を行います(長期 +LF* 調整は P5202A 型プローブでは行いません)。この順序を必要なだけ繰り返して、方形波応答を最適化します。



警告: 調整には、絶縁されたツールのみを使用してください。そうしないと、感電する危険があります。



9. ゼネレータの出力を無効にします。
10. ゼネレータへのプローブ入力リードを逆につなぎます。
11. オシロスコープの信号とトリガのスロープを逆にして、信号の立上りエッジが見えるようにします。
12. ゼネレータの出力を有効にして、長期 -LF、長期 -LF*、短期 -LF の順に調整を行います（長期 -LF* 調整は P5202A 型プローブでは行いません）。この順序を必要なだけ繰り返して、方形波応答を最適化します。
13. ゼネレータの出力を無効にします。

表 18: LF 補正のテスト機器の設定

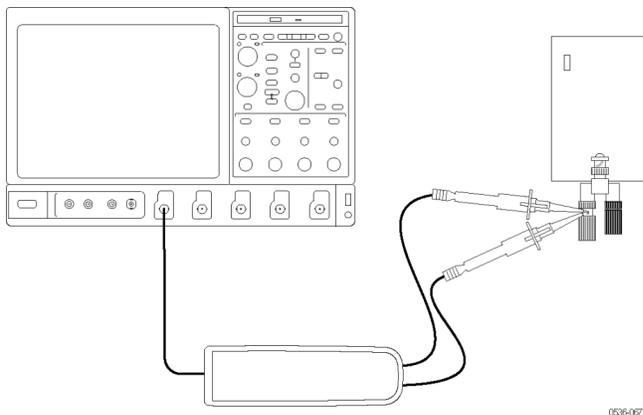
型名	プローブ	ゼネレータの高速立上り出力	
	レンジ	電圧 (p-p)	周波数
P5200A 型	50X	50 V	10 KHz
P5202A	20X	50 V	10 KHz
P5205A	50X	50 V	10 KHz
P5210A	100X	50 V	10 KHz

AC CMRR



警告: 校正ゼネレータの出力端子と接続ケーブルには危険な電圧がかかります。ゼネレータに何らかの接続を行う前には、必ずゼネレータがスタンバイ・モードになっていることを確認してください。

1. ゼネレータの出力がオフになっていることを確認します。
2. 両方のプローブ入力をゼネレータの前面出力の赤い (+) バナナ・コネクタにつなぎます。必要なら、BNC-バナナ・アダプタを使用します。

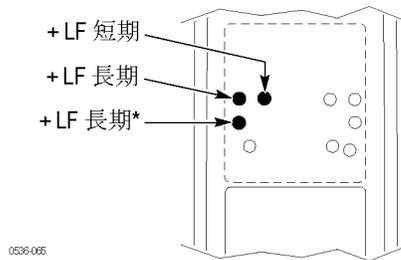


3. ゼネレータの正弦波出力を 297 Vp-p (105 Vrms) @100 KHz に設定します。
4. オシロスコープの水平軸を 10 μ s/div に設定します。
5. プローブの帯域幅を FULL、減衰比を低い方のレンジに設定します。

6. ゼネレータの出力を有効にします。信号が表示されるように、オシロスコープの垂直軸を調整します。
7. +LF ポットのみを少しだけ調整して、CMRR を最適化(信号を最小化)します。調整は、短期 +LF、長期 +LF、長期 +LF*、短期 +LF の順序で行います (長期 +LF* 調整は P5202A 型プローブでは行いません)。



警告： 調整には、絶縁されたツールのみを使用してください。そうしないと、感電する危険があります。



8. ゼネレータの出力を無効にします。

表 19: AC CMRR テスト機器の設定

型名	プローブ レンジ	ゼネレータの正弦波出力	
		電圧 (p-p)	周波数
P5200A 型	50X	297 V	100 KHz
P5202A	20X	297 V	100 KHz
P5205A	50X	297 V	100 KHz
P5210A	100X	297 V	100 KHz

これで調整手順は完了しました。

トラブルシューティング

ホスト機器のファームウェア

機器により、Tektronix が提供する最新のプローブの全機能を使用できるようにするには、ファームウェアのアップグレードが必要となる場合があります。ファームウェアのバージョンが古い機器の場合、画面にプローブ・コントロールとインジケータの一部が表示されないことがあります。また、機器を通常の操作状態に戻すために、電源を入れ直す必要がある場合があります。プローブに何か問題があり、機器のファームウェアのアップグレードが必要と思われる場合は www.tektronix.com/probe-support にアクセスして、最新のファームウェアをダウンロードしてください。

Windows ベースの機器でファームウェアのバージョンを確認するには、メニュー・バーから Help、About TekScope の順にクリックします。Linux ベースの機器では、フロント・パネルの Utilities ボタンを押します。

エラー状態

LED の点灯が続かない

プローブを接続した後、LED がすべて消えてしまう場合は、プローブとオシロスコープのインタフェースに問題がある可能性があります。問題が解決するか特定できるまで、次のステップを実行します。

- P5200A 型プローブを使用している場合は、DC が接続され、機能していることを確認します。
- プローブを取り外して再度接続し、パワーオン診断の手順を再度実行します。
- オシロスコープの別のチャンネルにプローブを接続します。
- プローブをオシロスコープから外し、オシロスコープの電源を入れ直し、プローブを再度つなぎます。
- プローブを別のオシロスコープに接続します。

現象が解決しない(現象がプローブに追従する)場合は、プローブに欠陥がありますので、修理のため当社サービス受付センターに返送していただく必要があります。

信号表示

プローブがアクティブな信号ソースに接続されているのに、オシロスコープに信号が表示されない場合は、以下を実行してください。

- 使用しているプローブのアクセサリが、確実に取り付けられていることをチェックします。
- 回路上のプローブの接続部をチェックします。
- プローブの機能チェックを行います。

クリーニング

プローブは悪天候にさらさないようにしてください。このプローブは防水加工されていません。



注意：噴霧、液体、または溶剤にプローブを触れさせないようにしてください。プローブが損傷する可能性があります。表面をクリーニングしているときにプローブ内部が湿らないようにしてください。

プローブの表面のクリーニングには、乾いた無塵布か柔らかい毛ブラシを使用してください。汚れが落ちない場合は、75%のイソプロピル・アルコール溶液をしみこませた柔らかい布または綿棒を使用してください。綿棒または布は、溶液で十分に湿らせてから使用してください。研磨剤は、プローブのどの部分にも使用しないでください。

サービス

P5200A シリーズのプローブには、お客様が修理できる部品はありません。プローブのサービスが必要な場合は、修理のためのプローブの返送について当社サービス受付センターにお問い合わせください。

索引

ENGLISH TERMS

THV ブラウザ, 22
 TPA-BNC 型アダプタ, 2
 TPH1000 型プローブ・ホル
 ダ, 21

あ

アクセサリ
 P5200A 型のスタンダー
 ド, 10
 P5200A シリーズのオプショ
 ン, 16
 P5202A 型のスタンダー
 ド, 10
 P5205A 型のスタンダー
 ド, 10
 P5210A 型のスタンダード
 , 12
 安全にご使用いただくため
 に, iii

え

エラー状態
 LED, 54
 信号表示, 54

お

オシロスコープとのインタフェー
 ス, 1
 オプション
 P5200A 型プローブの電源
 と電源コード, 15

オーバーレンジ, 6, 7
 オーバーレンジの検出, 28

き

機器からの取り外し, 5
 機能チェック, 8
 基本操作, 25

け

検査記録, 41

し

仕様, 29
 機械的特性, 31
 公称, 32
 代表, 30
 保証, 29

せ

性能グラフ, 33
 性能検査, 37
 検査記録, 41
 接続
 P5200A 型, 3
 P5202A 型, 4
 P5205A 型, 4
 P5210A 型, 4

そ

測定例, 26

た

帯域制限, 7

ち

調整(サービス専用), 42

と

動作限度, 25
 同相除去, 28
 トラブルシューティング, 54

ふ

ファームウェア, 54
 負荷, 28
 プロービング・テクニック, 25
 プローブのコントロール
 オーバーレンジ・アラーム
 音, 7
 減衰, 7
 帯域制限, 7

ほ

ホスト機器のファームウェア, 54